

國學院大學 大学院

Graduate School of
Kokugakuin University.

文学研究科：神道学・宗教学専攻 / 文学専攻 / 史学専攻
法学研究科：法律学専攻 経済学研究科：経済学専攻



KOKUGAKUIN
UNIVERSITY
140th 1882-2022



もっと日本を。もっと世界へ。



國學院大學

充実した学修環境と支援を用意 —意欲ある人材に呼びかける

國學院大學は、明治15年(1882)に創設された「皇典講究所」を母体とし、同23年(1890)に国史・国文・国法を究明する教育機関として発足した「國學院」を淵源としており、令和4年(2022)には創立140周年を迎えます。大学院は、戦後間もない昭和26年(1951)に文学研究科修士課程が開設されたことにはじまり、2年後には博士課程も設置されました。その後、昭和42年(1967)には法学研究科、同43年(1968)には経済学研究科が順次開設され、3研究科の下に5専攻(神道学・宗教学、文学、史学、法学、経済学)がおかれて今日に至っています。

昨今の学問研究をめぐる環境はますます厳しさを増し、大学院を出た若手研究者がなかなか定職に就けない状況が続いています。そのようななかであって、本学大学院は毎年10名以上の学位(博士号)取得者を輩出しており、彼らのなかから本学の専任教員になる人も、文学部・神道文化学部を中心にかなりの数にのぼります。かくいう私も、本学大学院出身者の末席につらなるひとりです。また法学研究科では公務員コースを設置して、修了後の就職を見据えた細やかな指導をおこなっており、経済学研究科でも公認会計士や税理士資格の取得に向けた充実したカリキュラムを用意しています。

令和2年度(2020)からはコースワーク制を導入し、複数の教員による論文指導体制を導入しました。これによって大学院生は、自分の研究を多角的にとらえることが可能となり、より客観的・相対的な検討ができるようになったと考えます。また同年には奨学金制度の改正もおこなわれ、経済支援型と学業奨励型の二本立てになり、従来よりも手厚い支援を受けられるようになったことは特記しておくべきでしょう。このほかにもさまざまな資格取得、研究助成制度、国際的な学术交流や留学支援などを整備しており、他の大学院との単位互換制度や特別研究員・特別研究生・聴講生・科目等履修生などの学びの場を設けており、大学院生のニーズや修了後のさらなる学修環境の拡充にも留意していますので、探究心・知的好奇心にあふれた意欲ある方々の入学を期待しています。

大学院委員長 **佐藤 長門**
SATO Nagato

國學院大學大学院 組織図



学位取得までのサポート

大学 (学部)

入試制度

一般入試 社会人入試 外国人入試

学内推薦等

文学研究科：GPA(学部成績)が
基準以上であれば筆記試験免除
(書類審査・口述試験にて選考)

法学研究科：先取り履修(P18)、飛び入学(P18)
経済学研究科：2年以内の学部卒業生も出願可能



減免制度

私費外国人留学生

一定の要件を満たすことにより授業料3割減免

本学出身者

入学金および施設設備費半額(本学前期課程修了者が後期課程に進学した場合は全額免除)

：T・A(ティーチング・アシスタント)

教育研究者を目指す大学院学生が、能力開発の機会提供として、学部学生等に対するチュータリング(助言)や教育補助業務に従事し、教員歴としての業績を積むための制度です。

：R・A(リサーチ・アシスタント)

博士後期課程在学を資格とし、大学院特定課題研究(P27)の協力者として研究者の指示に従い、研究遂行上必要な業務に従事します。

：P・D(ポスト・ドクター)研究員

博士後期課程修了・単位修得退学を資格とし、研究組織においてP・D研究員の身分で大学院特定課題研究(P27)に従事します。

T・A / R・A / P・D研究員は、大学から発令を受けて雇用となり、職歴として記載できます。

：修士論文提出

法学研究科はプロジェクト・ペーパー、経済学研究科はリサーチ・ペーパーの場合があります。

博士前期課程

(標準修業年限2年)

学位授与
修士 30単位以上修得
修士論文提出……
最終試験

学修支援

T・A(ティーチング・アシスタント)……
大学院奨学金、留学に伴う奨学金、国際交流旅費補助
科目等履修生、聴講生、特別研究生 研究誌：大学院紀要他

取得可能な資格

教員専修免許 國學院ミュージアム・アドミニストレーター
1級考古調査士 國學院ミュージアム・キュレーター
税理士試験一部免除(P23)

キャリアサポート

企業セミナー・模擬面接指導会など(P27)

【科目等履修生・聴講生】

正規入学せずに授業科目を履修することができる制度です。修得単位は、大学院入学後に10単位を限度として修了に必要な単位として認定されます。また、単位の認定を必要としない場合は「大学院聴講生制度」により授業科目の聴講が可能ですので、詳細については大学院事務課までお問い合わせください。

【高度博物館学教育プログラム】

(文学研究科3専攻から複専修が可能)

「高度博物館学教育プログラム」は、本学が長年培ってきた史学・文学・神道学などの成果をふまえて、専門性の高いカリキュラムによる高度な学芸員の養成を目指しています。プログラム修了者には「國學院ミュージアム・アドミニストレーター」「國學院ミュージアム・キュレーター」という本学独自の上級学芸員の資格を授与します。なお本プログラムは、史学専攻博物館学コースを主軸としながら、文学専攻と神道学・宗教学専攻を加えた計3専攻において、主専攻と併行して履修することが可能な「複専修制度」を導入しています。

【教員専修免許状】

専修免許状とは、第一種普通免許状(学部で取得)を基礎にして、大学院を修了して修士の学位を有し、「教科または教職に関する科目」の所定単位を修得することで取得可能な教員免許状であり、一種免許状の上位の免許状です。近年の教育現場では、教科に関する高度な専門知識や教授法が求められる傾向が高まりつつありますので、大学院での高度な研究を通して得た知見を教育の現場で活かしたい、と考える皆さんにとって必要な免許状と言えるでしょう。

課程認定されている専修免許状の種類および教科

研究科	専攻	免許状の種類および教科	
		中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
文学研究科	神道学・宗教学	社会	公民
	文学	国語	国語
	史学	社会	地理歴史
法学研究科	法律学	社会	公民
経済学研究科	経済学	社会	公民

第一種普通免許状を有している場合

博士後期課程

(標準修業年限3年)

学位授与
博士 12単位以上修得
博士論文提出
最終試験

学修支援

博士前期課程を修了以降
T・A(ティーチング・アシスタント)……
R・A(リサーチ・アシスタント)……
大学院奨学金 / 国際交流旅費補助
特別研究生

課程博士学位取得者等

P・D(ポスト・ドクター)研究員……
特別研究員(研究費・出版助成)

【特別研究生】

博士前期課程を修了して後期課程への進学準備をする者や、後期課程所定単位を修得のうえ退学して博士学位論文の提出準備をする者について、特別研究生として指導教員のもと研究を継続します。

【国際交流旅費補助】

海外における国際的な学会等への参加や調査研究の費用(航空運賃・宿泊費など)を助成します。海外で研究発表や調査を行うことで、研究業績を積み上げることが出来ます。

【特別研究員への研究費助成】

若手研究者のグローバル人材養成を目的として、一定の要件を満たす特別研究員(課程博士学位取得者)の研究活動を支援するための研究費(図書費・研究調査費・国際学会旅費など)を助成します。

【刊行物】

課程博士論文出版助成

博士の学位を得た修了生に対し、博士学位論文の出版費用の一部を助成します。

大学院紀要の刊行

年1回刊行される『國學院大學大学院紀要-文学研究科-』『國學院法政論叢』『國學院大學経済学研究』には、在学が指導教員の推薦に基づき投稿することができます。掲載された査読付き論文は、本人の研究業績となります。

研究者・教員ほか

学費 / 奨学金制度



【学費等納付金(令和3年度参考)】

単位：円

出身	博士前期課程		博士後期課程	
	本学	他大学	本学	他大学
文学研究科	719,000	929,000	519,000	929,000
法学研究科	720,000	930,000	520,000	930,000
経済学研究科	719,000	929,000	519,000	929,000
(内入学金)	(100,000)	(200,000)	(100,000)	(200,000)

2年目以降は入学金を除いた金額を納入
詳細は、入学後に配布する「大学院学生便覧」をご参照ください。

【國學院大學大学院奨学金制度(給付)】

本学独自の奨学金制度です。
令和2年度から、経済支援型と学業奨励型の奨学金として、新しい奨学金制度が導入されました。
大学院奨学金詳細は本学HPもご参照下さい。

【協定留学及び認定留学奨学金(給付)】

海外の大学へ協定留学又は認定留学を行う大学院学生に対し、学業を奨励し、留学期間が2学期間の者には40万円を、1学期間の者には20万円を支給します。

【税理士試験支援奨学金(給付)】

税理士試験に1科目以上合格している経済学研究科の学生に対し、外部セミナー受講料の50%相当(10万円を上限)を、在学期間中2回まで給付します。

【日本学生支援機構奨学金(貸与)】

第1種(無利子)
前期課程：月額55,000円・88,000円から選択
後期課程：月額80,000円・122,000円から選択
第2種(有利子)
月額50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円から選択

このほか経済的な負担を軽減し、学業奨励を目的とした奨学金制度があります。



おも 3つの慮い

異なる2つの概念の調和を目指します



研究教育開発推進に関する宣言

國學院大學は、建学の精神である「神道精神」に基づく研究教育を更に創造的に発展させ、

主体性・独自性を保持しつつ、国際社会での協調・共生体制を構築し、

学術研究及び教育を通して日本社会の発展と世界の平和に貢献する。

本学は、「伝統と創造」「個性と共生」「地域性と国際性」の調和を研究教育における基本方針と定め、

日本人としての自覚と教養を身につけ、自立した個性を有し、

より良き日本社会と世界の形成に尽力できる意思と能力を持つ人材を育成することを目標とする。

また、研究教育における成果を広く社会に還元するとともに、研究教育の質的向上を不断に図り、

具体的施策を立案・実施・検証する体制を構築し、その推進に当たることを宣言する。

大学院基本研究教育方針〔大学院憲章〕

【学統の継承・発展と創新】

本学学術資産への理解を基に、学統の継承・発展そして新たな創造を企図する。

【研究倫理確立を通じた人格の陶冶】

研究倫理・法令の遵守・人権の保護を徹底し、それらを基盤とする人格の陶冶に努める。

【研究能力の飽くなき向上】

創新・企画・協調・遂行の資質の涵養によって、国際化に対応する研究能力の向上を図る。

【学知の拡大と連携】

関連領域のない学問は存在しない。よって学知の拡大を企図し、より高度な専門知識の獲得の上に、多様で柔軟な隣接領域への学知の拡大を推進する。

【研究成果の発信と社会還元】

学習成果の可視化、研究成果の発信を積極的に推進する。

3 博士課程教育実施方針 3つのポリシー

学位授与方針 *diploma policy*

博士前期課程においては、研究科で定める教育課程の単位を修得し、専門的知識を自らのものとするとともに、主体的に研究課題を定め、これに関する諸研究の検討を行い、新たな知見を加えた修士論文あるいは特定の課題についての研究成果を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、その専攻分野を示す修士の学位を授与する。

博士後期課程においては、研究科で定める教育課程の単位を修得するとともに、その分野の研究動向を理解した上で、独自の見解を含む博士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、その分野で継続的な研究が行い得ると認定された者に、その専攻分野を示す博士の学位を授与する。また、自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、かつ口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対しても、その専攻分野を示す博士の学位を授与する。

教育課程の編成・実施方針 *curriculum policy*

大学院の設置目的を実現するために文学、法学、経済学の3研究科を置き、大学院学生が、学知を主体的に選択して、自己の研究に取り組む能力を涵養し、研究指導・方法の多様性と、自己の意志に基づく自由な選択を保障することを方針として教育課程を編成する。この方針に基づいて、全研究科を通じて開講科目を全セメスター化とし、博士前期課程と博士後期課程とを一貫させた教育課程として設ける。また、各研究科ごとに演習、論文指導演習、研究指導、専門講義科目あるいはコースワーク科目、アカデミック・ライティングなどを設置するとともに、複数の教員による指導制を確立する。

入学者受入れ方針 *admission policy*

大学院ならびに各研究科設置の目的と合致する、積極的な目的意識や志向性を有するとともに、研究科での学修ならびに研究に必要な基礎的な知識や能力などを備えていることを受入れ方針としている。また、学士課程(学部)修了者を対象とする一般入学に加え、学士課程(学部)において優秀な成績を修めている者の大学院への飛び入学や推薦入学、さまざまな経験を有する社会人や外国人を対象とする入学選抜など、多様な入学制度を設けることで、大学院における学修・研究活動の活性化や視点の拡大をはかることを方針としている。



文学研究科

Graduate School of Letters

専攻分野 神道学・宗教学
文学
史学

授与学位 修士(神道学)/博士(神道学)/修士(宗教学)/博士(宗教学)
修士(文学)/博士(文学)/修士(民俗学)/博士(民俗学)
修士(歴史学)/博士(歴史学)



人間の営為を深く極める

文学研究科は、日本文化の真髄を理解し、かつ幅広い知識を持つことで、新しい価値観を創造し、人類文化の発展に寄与できる優れた研究者や専門的業務に従事する者の養成を目的としています。

この目的のもとに神道学・宗教学専攻、文学専攻、史学専攻の3専攻を設置し、国内は言うに及ばず国際的にも専門性の高い、充実したカリキュラムを整えています。各専攻とも長い歴史を持ち、図書館や博物館などの豊富な資料も活用しながら教育研究活動を行い、神道、文学、史学の分野に多くの研究者、教育者を輩出しています。さらに、文部科学省が推進する複数の研究プログラムへの採択や、専攻内の新コースの設置、カリキュラム改訂、他の大学院との単位互換、学部生の大学院科目先取り履修制度の導入、入試制度の改革など、特色を活かした教育・研究、学部との連携強化を進めています。

修士、博士とも、修了者には神道学、宗教学、文学、民俗学、歴史学の学位が与えられるのも文学研究科の特色で、今日では課程博士の学位を取得する大学院学生も増えています。

文学研究科 教育研究上の目的と方針(3つのポリシー)

文学研究科の教育研究上の目的

文学研究科は、日本文化の真髄を理解し、かつ幅広い知識をもち、新しい価値観を創造し人類文化の発展に寄与することができる、優れた研究者及び専門的な業務に従事する者を養成することを目的とする。

神道学・宗教学専攻

日本古来の伝統宗教である神道を中心とする日本の伝統文化に関して、歴史的思想神学的な理解を深め、内外の諸宗教及びそれに関連する宗教文化の意義と役割を比較研究し、幅広い人材を養成すること。

文学専攻

文化・文学・言語に関する高度な研究の深化・発展を図り、その能力を有する研究者、及び豊かな学識と高度な教育能力をもつ教育者を養成し、専門的業務に従事する社会人を再教育すること。

史学専攻

国内外の歴史学・考古学・地理学・博物館学及び美学美術史の幅広い分野に関し研究の深化・発展を図り、各種研究教育機関で研究教育に携わる優れた人材を育成すること、併せて社会人を積極的に受け入れ、幅広い人材を養成すること。

文学研究科の博士課程教育実施方針(3つのポリシー)

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

文学研究科設置目的を実現するために、各専攻において編成されている教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、その専攻分野を示す学位を授与する。

また、自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、かつ口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対して、その専攻分野を示す博士の学位を授与する。

神道学・宗教学専攻

博士前期課程においては、文学研究科設置目的を実現するために編成されている神道学・宗教学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、専攻分野において、自ら研究課題を定め、これに関する先行研究の検討を行い、資料について専門的スキルと実証的な研究姿勢を身につけ、柔軟な発想と論理的思考で的確な解釈や分析を踏まえて新たな知見を加えた修士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、修士(神道学)または修士(宗教学)の学位をそれぞれ授与する。

博士後期課程においては、神道学・宗教学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得

するとともに、先行研究を踏まえて新知見を加えた完成度の高い博士論文を提出し、口述試験においても的確な応答を行い、研究者として自立できる学力があると認定された者に、博士(神道学)または博士(宗教学)の学位をそれぞれ授与する。また、自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対して、博士(神道学)または博士(宗教学)の学位を授与する。

文学専攻

博士前期課程においては、文学研究科設置目的を実現するために編成されている文学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、専攻分野において、自ら研究課題を定め、これに関する先行研究の検討を行い、資料について専門的スキルと実証的な研究姿勢を身につけ、柔軟な発想と論理的思考で的確な解釈や分析を踏まえて新たな知見を加えた修士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、日本文学、日本語学、中国文学、高度国語・日本語教育の各コースにおいては博士(文学)の学位を、伝承文学コースにおいては、博士(文学)または博士(民俗学)の学位をそれぞれ授与する。

博士後期課程においては、文学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するととも

に、先行研究を踏まえて新知見を加えた完成度の高い博士論文を提出し、口述試験においても的確な応答を行い、研究者として自立できる学力があると認定された者に、日本文学、日本語学、中国文学、高度国語・日本語教育の各コースにおいては博士(文学)の学位を、伝承文学コースにおいては、博士(文学)または博士(民俗学)の学位をそれぞれ授与する。また、自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対して、日本文学、日本語学、中国文学、高度国語・日本語教育の各コースにおいては博士(文学)の学位を、伝承文学コースにおいては、博士(文学)または博士(民俗学)の学位をそれぞれ授与する。

史学専攻

博士前期課程においては、文学研究科設置目的を実現するために編成されている史学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、専攻分野において、自ら研究課題を定め、これに関する先行研究の検討を行い、資料について専門的スキルと実証的な研究姿勢を身につけ、柔軟な発想と論理的思考で的確な解釈や分析を踏まえて新たな知見を加えた修士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、修士(歴史学)の学位を授与する。

博士後期課程においては、史学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、先行研究を踏まえて新知見を加えた完成度の高い博士論文を提出し、口述試験においても的確な応答を行い、研究者として自立できる学力があると認定された者に、博士(歴史学)の学位を授与する。また、自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対して、博士(歴史学)の学位を授与する。

教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

文学研究科設置目的を実現するために、各専攻内に専門分野に基づいたコースを設けることによって、学生の研究に資することを方針としている。

神道学・宗教学専攻

博士前期課程においては、入学年度前期に研究倫理教育を課するとともに、コース横断のテーマを扱う導入教育科目を開講し、広い視点と学識を涵養する。また、専攻分野に関する高度な研究能力と専門的業務を担うための能力を培うために各専門分野の演習を設け、複数の指導教員による資料の読解・分析ならびに実地調査などの研究指導を行う。さらに、修士論文とその他の研究論文のまとめ方を修得するために、複数の指導教員による論文指

導演習を実施する。

博士後期課程においては、専攻分野に関する自立した研究活動を行う能力と専門的業務を担うためのより高度な能力を培うために、専門分野の演習と論文指導演習を編成する。また、各年度に研究計画と研究進捗状況、ならびに研究業績の報告を義務付け、博士論文の作成を着実に進め所定の修業年限内に提出できるよう指導と督励を行う。

文学専攻

博士前期課程においては、入学年度前期に研究倫理教育を課するとともに、日本文学(高度国語教育含む)、日本語学、伝承文学、中国文学、日本語教育の各コースにおいて、横断のテーマを扱う導入教育科目を開講し、広い視点と学識を涵養する。また、専攻分野に関する高度な研究能力と専門的業務を担うための能力を培うために各専門分野の演習を設け、各コースごとに複数の指導教員による資料の読解・分析ならびに実地調査などの研究指導を行う。さらに、修士論文とその他の研究論文のまとめ方を修得するために、各コースごと

に複数の指導教員による論文指導演習を実施する。

博士後期課程においては、専攻分野に関する自立した研究活動を行う能力と専門的業務を担うためのより高度な能力を培うために、専門分野の演習と論文指導演習を編成する。また、各年度に研究計画と研究進捗状況、ならびに研究業績の報告を義務付け、博士論文の作成を着実に進め所定の修業年限内に提出できるよう指導と督励を行う。

史学専攻

博士前期課程においては、入学年度前期に研究倫理教育を課するとともに、コース横断のテーマを扱う導入教育科目を開講し、広い視点と学識を涵養する。また、専攻分野に関する高度な研究能力と専門的業務を担うための能力を培うために各専門分野の演習を設け、複数の指導教員による資料の読解・分析ならびに実地調査などの研究指導を行う。さらに、修士論文とその他の研究論文のまとめ方を修得するために、複数の指導教員による論

文指導演習を実施する。

博士後期課程においては、専攻分野に関する自立した研究活動を行う能力と専門的業務を担うためのより高度な能力を培うために、専門分野の演習と論文指導演習を編成する。また、各年度に研究計画と研究進捗状況、ならびに研究業績の報告を義務付け、博士論文の作成を着実に進め所定の修業年限内に提出できるよう指導と督励を行う。

入学受入れ方針(アドミッション・ポリシー)

文学研究科の設置目的である「日本文化の神髄を理解し、かつ幅広い知識をもち、新しい価値観を創造し人類文化の発展に寄与」したいという目的意識や志向性を有する者を対象とする。

神道学・宗教学専攻

神道学・宗教学専攻においては、その資質として、神道文化をはじめ国内外の宗教文化に関する幅広い知識と具体的な研究課題をもち、かつその学修・研究に必要となる問題発見能力、知識、技能などを備えていることを受入方針としている。

さらに社会人や外国人を対象とした入学受入れ制度も設け、大学院における学修・研究活動の活性化や視点の拡大などをはかることを方針としている。

以上に加え、博士前期課程においては、学部教育における幅広い教養と基礎的な専門教育を修得した者を受け入れる。博士後期課程においては、博士前期課程修了程度の能力を有し、専門領域において独自の研究計画に基づく継続的研究を志向し、それを遂行するに足る能力と技能を備えた者を受け入れる。

文学専攻

文学専攻においては、その資質として、日本文学、日本語学、中国文学、伝承文学、高度国語・日本語教育の各コースに関する幅広い知識と具体的な研究課題を持ち、かつその学修・研究に必要となる問題発見能力、知識、技能などを備えていることを受入方針としている。

さらに社会人や外国人留学生を対象とした入学受入れ制度も設け、大学院における学修・研究活動の活性化や視点の拡大などをはかることを方針としている。

史学専攻

史学専攻においては、日本史学および歴史地理学・外国史学・考古学・博物館学・美学美術史の各コースに関する幅広い知識と高い研究意欲ならびに具体的な研究課題を持ち、かつその学修・研究に必要となる問題発見能力、知識、技能などを備えている入学受入れられる。

博士前期課程では、学部教育において幅広い教養と基礎的な専門教育を修得し、さらなる専門的研究をおこなう意欲と知識・技能を備えた入学受入れられる。

博士後期課程においては、すぐれた研究論文を提出して修士の学位を修得し、専門領域において独自の研究計画に基づく研究を継続する意欲とそれを遂行するに足る能力と技能を備え、所定の修業年限内に博士論文を提出して博士の学位を得ようとする目的を持った入学受入れられる。また、それと同等の学力と強い研究意欲をもち、博士学位授与に相応しい研究業績を有する者を受け入れる。



2019年 インド・ニューデリーでの大道芸調査(蛇つかい芸)

無限世界 への飛翔

学部での学びが離陸のための滑走なら、大学院での学びは無限世界への離陸、飛翔の始まりといえる。その無限世界は、いうまでもなく思索と実践の世界である。それは次々に現れる難問を乗り越える旅の始まりともいえる。大学院は、この無限世界に挑戦したい人々を常に歓迎している。

文学専攻には、日本文学、日本語学、中国文学、伝承文学(民俗学)、高度国語・日本語教育の5コースがあって、ここには現在、21名の専任教員がいて、教員たちは院生自らが研究のロードマップを描き、その航路を飛ぶためのアドバイザーとなったり、ナビゲーターとなったり、場合によってはあたかも給油のために立ち止まることを求めたりもする。同じ航路を、競うように飛ぶこともある。

大学院の学びと教員の役割をやや抽象的に説明するとこのようになるが、私の専門領域で例をあげると、誰もが知る正月の「門松」でいうなら、全国の「門松」を調べると、松ではなく樺のこともあるし、「門松」を立ててはいけないという家もある。山から松を迎える日が決まってい

松」は久安6年の歌には「山がつのそとの松……」、『梁塵秘抄』には「松は祝いのものなれば……」、『本朝無題詩』には賢木から松への変化があって、文学世界にも登場する。こうした「門松」には正月の神が宿るし、「松囃」の芸能もあるし、松の神性は『万葉集』の結びの松にもうかがえる。まさに、誰もが知る「門松」の世界は無限であって、「門松」研究のロードマップは際限なく描ける。いくつも描いた路からどれを選ぶかは、この世界に挑戦する院生自身であり、豊富な研究キャリアをもつ教員は、その横で飛行を助ける役である。

「あなたが、あなたでいるため」には、自分で描いた路を自分で進まなければならないが、文学専攻には5つのコースがあって、21名の教授陣がいるということは、多くのアドバイザーがいて「あなたでいるため」の路を見つけやすいということである。

文学研究科 文学専攻 教授 **小川 直之**
Ogawa Naoyuki

神道学・宗教学専攻 Shinto Studies and Religious Studies



Oonuki Daiki

「宝暦事件」を竹内式部に学んだ公家の視点から考察

垂加神道を創唱された近世を代表する大学者山崎闇齋先生の学問に心奪われ、その学問をより深く学ぶために進学致しました。闇齋先生の曾孫弟子にあたる垂加神道家竹内式部先生の下には多くの公家が学びました。彼等は式部先生の教えに基づく『日本書紀』御進講を時の天皇である桃園天皇へ奉仕しましたが、これが後に近世の朝廷を揺るがした所謂「宝暦事件」へと展開致します。私は垂加神道の神学を押さえた上で、式部先生の学問と人物に迫り、式部先生に学んだ公家の視点から、事件について研究しております。闇齋先生は神道と儒学の兼学を説かれたので、儒学もしっかりと学ばなくてはならないと考えま

した。そこで漢文の読解力と儒学の素養を身に付けるために中国文学専攻の演習を受講致しましたところ、快く受け入れて下さり、基礎から鍛えていただきました。本学大学院の良いところは他専攻の先生方からも手厚い御指導を受ける事が出来る点です。有栖川宮幟仁親王が皇典講究所開校式に於いて発せられた告諭に見える「國體ヲ講明シテ以テ立國ノ基礎ヲ鞏クシ徳性ヲ涵養シテ以テ人生ノ本分ヲ盡ス」という建学の精神を心に刻み、今後も古人・先哲の示された学問とその精神を体認すべく困学に努めて参りたく存じます。

國學院大學大学院 博士前期課程 修了
文学研究科 神道学・宗教学専攻 博士後期課程 在学 **大貫 大樹**



Kutsunugi Sae

神楽による現代日本人の宗教観と有職故実の視覚的研究

学部時代、神楽を見た場所による人の反応の差異を調べるために海外と日本で比較研究を行いました。この研究により、日本人としての意識を持つ人々の社会・文化の異質性と多様性の自覚が、日本ならではの国土観・郷土概念への意識をより強くさせるのではないかと気づきました。そして、海外と日本という大きな枠組みだけでなく、国内でも起きることがわかり、調査していくことにしました。この研究は視覚との関係性が大きく、視覚的な情報がどれほど人々の心に影響を与えるのか、場所や装束、遊んで有職故実などとの繋がりを見ていく必要性があります。

これを基に日本人の宗教観について、神社関係者

の中で長期間の参与観察期間を設けて、人々の生き方・宗教観・自然観・考え方など何度も聞き取り調査を積み重ねながら、そこに至るまでの経験や体験を丁寧に記録していきたいと考えています。研究を進める上で、机上は元より、実際に神社祭式などの知識を身につけることが不可欠と考えています。また、神職の方々と考えを共有しつつ、研究を行うことも重要と考えます。このように神道学を学ぶ上で國學院大學大学院は最も優れた機関です。

『古事記』序文より「古より稽へて今を照らす。」ということで先人たちが残してくれたものを受け継ぎ、これから私なりに微力ながらも神道学・宗教学研究の発展に寄与していきたいです。

上智大学 文学部 史学科 卒業
文学研究科 神道学・宗教学専攻 在学 **沓脱 紗英**

神道学・宗教学専攻 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
西岡 和彦	教授/博士(神道学・國學院大學)	神道思想史	神道神学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	山崎闇齋『風水草』を精読する
武田 秀章	教授/博士(神道学・國學院大學)	神道史、国学史	神道史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	史料から見る近世・近代の神道史
笹生 衛	教授/博士(宗教学・國學院大學)	日本考古学、日本宗教史	神道史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	考古学資料と文献史料による古代の神社と祭祀構造復元のための方法論の検討
松本 久史	教授/博士(神道学・國學院大學)	近世・近代の神道史・国学研究	神道古典研究A・B・特殊研究A・B(演習)	平田篤胤『古史成文』を読む
遠藤 潤	教授/博士(宗教学・國學院大學)	宗教学、日本宗教史	宗教学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	宗教研究の現在を理解する
石井 研士	教授/博士(宗教学・國學院大學)	宗教学、宗教社会学	令和3年度は国内派遣滞在中	
黒崎 浩行	教授/博士(宗教学・國學院大學)	宗教学、宗教社会学、宗教とメディア	宗教社会学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	近現代の宗教における共同体と個人
岡田 莊司	客員教授/博士(歴史学・國學院大學)	古代中世神道史・神社史	神道史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	古代祭祀論・中世神道論をとおして現代神道を考える

日本文学コース

Japanese Literature



近代文学への理解を深め、対話重視の授業を行いたい

私は学部を卒業後、都内の私立中高一貫校において国語科の専任講師として務めていました。そこで、生徒に実感を持って教えるためには自分自身が納得できるまで学問を深める必要があると感じ、大学院に進むことを決意しました。また、自身の卒業論文や研究分野に対して、さらに理解を深めたいということも大きな動機になりました。

私の研究分野は近代文学です。その中でも特に石川淳の『紫苑物語』を中心として 物語 や 歴史 をモチーフにした昭和三十年代の作品群について、近代小説において 物語 とはどのように捉え直していけるのかという点にも視野を広げつつ、研究していきたいと考えています。

文学研究科では、自分の専門分野は元より、上代文学から近代文学、さらには民俗学や言語学まで、専任の先生方が揃っており、自分の研究に邁進するだけではなく、横断的な学びとして、様々な視点に触れて文学研究を深めていくことができます。

修了後は高校の教員として、より専門的に、より広い視野をもって、文学とは何か、私たちはなぜ本を読むのか、なぜ人々は物語を必要とするのかなど、教室で読むこと、対話することを重視した授業を行っていきたくと考えています。また、高校教員と並行して、学会発表なども継続して学び続けていきたいと考えています。

國學院大學 文学部 日本文学科 卒業
文学研究科 文学専攻 日本文学コース 在学 **春日 溪太**

日本文学コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
土佐 秀里	教授/博士(文学・國學院大學)	日本上代文学	日本上代文学研究AI・B・特殊研究AI・B (演習)	万葉集の研究
谷口 雅博	教授/博士(文学・國學院大學)	日本上代文学(古事記・日本書紀・風土記)	日本上代文学研究A・B・特殊研究A・B (演習)	『古事記』の文献学的研究
針本 正行	教授/博士(文学・國學院大學)	日本中古文学	日本中古文学研究AI・B・特殊研究AI・B (演習)	源氏物語の研究
山田 利博	教授/博士(文学・早稲田大学)	日本中古文学	日本中古文学研究A・B・特殊研究A・B (演習)	源氏物語の研究
竹内 正彦	教授/博士(文学・國學院大學)	日本中古文学	日本中古文学研究A・B・特殊研究A・B (演習)	源氏物語研究
野中 哲照	教授/博士(文学・早稲田大学)	日本中世文学	日本中世文学研究AI・B・特殊研究AI・B (演習)	物語の動態的重層構造を分析する
石川 剛夫	教授/博士(文学・國學院大學)	日本近現代文学	日本近現代文学研究AI・B・特殊研究AI・B (演習)	昭和期文学の特質を探究する(小林秀雄『本居宣長』考察)
井上 明芳	教授/博士(文学・國學院大學)	日本近現代文学	日本近現代文学研究A・B・特殊研究A・B (演習)	文学論争の分析を通じて、文学研究の言説を考察する。

日本語学コース

Japanese Language Studies



古代語の助動詞の用法への疑問に引き続き取り組む

古代語の文法に関心があって、本学日本文学科に入学しました。4年間勉強し、卒業論文を提出しましたが、日本語についてもっと学びたいと思い、大学院への進学を決めました。学部1年生から、有志の学生を中心とした勉強会に参加していて、研究する院生の姿を身近で見てきたのもきっかけの一つです。

学部の卒業論文では、古代語の助動詞「まし」と「む」との疑問文中での用法の違いについて研究しました。一応の結論は出せましたが解決できなかった疑問が残り、大学院進学後もこの延長で研究を続けています。

本学大学院には、古代語文法の通時態・共時態

を専門とする教員が一人ずついて授業科目が充実しています。他大学との交流も活発なので、学外の教員からも色々なことを教わることができます。図書館・資料室の蔵書、特に学術雑誌・研究書が多いところも大きな魅力の一つだと思います。

まだ博士課程前期1年なので、将来どうしたいかはっきりとは決まっていますが、博士課程後期への進学も選択肢の一つとして考えつつ、学部・院での学びが役に立つ分野に進みたいと考えています。

國學院大學 文学部 日本文学科 卒業
文学研究科 文学専攻 日本語学コース 在学 **藤原 慧悟**

日本語学コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
小田 勝	教授/博士(文学・國學院大學)	中古語文法	日本古代語研究AI・B・特殊研究AI・B (演習)	古代語文法の研究
三井はるみ	教授	日本語学	日本現代語研究A・B	方言学・日本語音声学
吉田 永弘	教授/博士(文学・國學院大學)	国語学	日本古代語研究A・B・特殊研究A・B (演習)	古代語法の研究

中国文学コース

Chinese Literature



中国幻想文学への理解の一助となるために

私は将来、翻訳を仕事にしたいと考えています。大学にはなかった中国文学を國學院大學大学院で専攻し、『山海経』をより深く研究し、中国文学への理解を深めることで、仕事をする時に役立てたいと思いました。

今は『山海経』と中国幻想文学とのかわかりを研究テーマとしています。『山海経』が中国幻想文学の始祖であると位置づけ、その後の作品にどのような影響を与えたのかについて考察していきたいです。

國學院大學大学院は、図書館に限らず、資料室にある物も合わせれば、基本的な物は揃うほど資料が充実しています。ウェブで検索できる資料との契約も多いので、学内にいながら、紙だけでなく多量の

資料を自分の研究に活かすことができます。さらには、複数指導体制なので、多角的視野から自分の研究を指導していただくことができ、良い刺激となり、それまでにはなかった新たな視点に気づけることも多いと考えています。

最近、中国では娯楽産業、特に中華ファンタジーアニメ映画に力を入れていますが、私が翻訳家となった際には、中国のそういった作品群を日本や世界に紹介できればと考えています。自分の研究が、作品を理解する手助けとなり、ひいては中国幻想文学を理解する一助となればと願っています。

東海大学 文学部 文芸創作学科 卒業
文学研究科 文学専攻 中国文学コース 在学 **曹 喆翔**

中国文学コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
石本 道明	教授	中国古典文学	令和3年度は国内派遣研究中	
宮内 克浩	教授	中国古典文学	中国文学研究A・B・特殊研究A・B (演習)	漢魏の文学の研究
浅野 春二	教授/博士(文学・國學院大學)	道教儀礼研究	中国文学研究A・B・特殊研究A・B (演習)	中国における招魂文学・招魂儀礼の研究

伝承文学コース

Folklore Studies



出羽三山信仰がなぜ関東圏に広がったのかを明らかに

学部の授業で民俗学について知り、興味を持ったのが本学大学院進学のかきかけです。学部で学んだことをさらに広く勉強し、知識を深めたいと思いました。また、将来学芸員などの民俗学のプロフェッショナルとなるために必要な、民俗学の修士・博士号を授与される唯一の大学院であることも決め手の一つでした。

今は、関東圏における出羽三山信仰についての研究に取り組んでいます。古くから修験道の場として知られている山形県の月山・羽黒山・湯殿山からなる出羽三山に関する信仰について、現地に行ったときに興味を持ちました。現地調査や文献調査などを行い、出羽三山信仰がなぜ、どのようにして遠距離

離にある関東圏にも広がっていったのか、どの地域に信仰が残っているのかを明らかにしたいと考えています。

本学大学院は教授との距離が近く、疑問に思ったことはそのままにせず、すぐにお聞きしたり、研究へのアドバイスをいただくことができる環境です。また、学生同士も仲が良いので、学生間で情報を共有したり、先輩に相談したり、様々な分野からの意見をもらって自分の研究に活かすことができます。

将来は、民俗学に関する博物館などで働きたいと考えています。大学院で得た知識を活かした仕事に就けるよう、研究に励みたいです。

國學院大學 文学部 日本文学科 卒業
文学研究科 文学専攻 伝承文学コース 在学 **尾川 絢香**

伝承文学コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
飯倉 義之	准教授/博士(文学・國學院大學)	口承文芸学、民俗学、現代民俗	伝承文学研究A・B・特殊研究A・B (演習)	口承文芸研究の方法を現在の社会や文化を理解する方法として用いる
大石 泰夫	教授/博士(文学・國學院大學)	国文学、民俗学	伝承芸能研究・特殊研究(演習) 日本伝承文化実習(実習)	民俗芸能の基礎的研究を学ぶ 民俗調査の基礎を学ぶ
小川 直之	教授/博士(民俗学・國學院大學)	民俗学	民俗学研究A・B・特殊研究A・B (演習)	折口学における術語形成と理論の検討
服部比呂美	准教授/博士(民俗学・國學院大學)	民俗学	民俗学研究A・B・特殊研究A・B (演習)	民俗学からみた「子ども」の位置づけ



ことばの大切さ、面白さを多くの人に伝えていきたい

私は中学校・高等学校の国語教員を志していません。大学入試共通テストの状況の変化や、高等学校における「文学国語」と「論理国語」という科目区分の誕生などによって、生徒が文学作品に触れる時間が減少してしまうのではないかとこの危惧を抱かれています。今、教室で文学作品を扱う意義が問われていると感じました。その意義について追究し、自分なりの信念をもってから教壇に立ちたいと考え、大学院への進学を決めました。

学部では近現代日本文学を専攻していますが、創作する分野にも興味を持ち、詩歌やエッセイなどの授業も履修していました。現在は、学部4年間の学びや経験を踏まえ、文学作品の中でも「詩」や教育に焦点を当てて研究を進めています。

本学大学院の魅力の一つは、幅広い研究分野の知識に触れることです。複数の先生方によるオムニバス形式の講義では、自分の専門分野以外の研究方法や特色についても学ぶことができ、他コースの講義を履修することも可能です。様々な研究分野の知識を得るとともに、自分の専門分野との類似点や相違点に気が付いたり、研究の新たな切り口を発見したりと、大いに刺激を受けています。

情報化社会の中で生きている私たちの周囲には、ことばが溢れかえっています。ことばを丁寧に扱うことの大切さ、ことばで表現することの楽しさ、文学の面白さを、多くの人に伝えていきたいです。

國學院大學 文学部 日本文学科 卒業
文学研究科 文学専攻 高度国語・日本語教育コース 在学 **古瀬 智美**



古代社会の一端を“怨霊”を通して解明

史料や先行研究を検討し実証するという歴史学の方法に面白さを感じ入学した國學院大學史学科で、最新の研究や生の史料に触れ、一層歴史学へ関心を持つようになりました。卒業論文作成の過程で、考察を重ね一つの結論を導くことの難しさを実感し、さらに学問の世界で知識や史料を読み解く技術に磨きをかけたいと思い本学大学院へ進学を決めました。

今は、平安時代の伝承に登場する怨霊について研究しています。古代の怨霊は政治事件で排斥された人物が取り上げられ、政治的・宗教的な要素が絡み合った上に成立しています。怨霊を考察することで複合的に成立した古代社会の一端を解明してい

きたいと思っています。

本学大学院は、開講されているゼミが多く、様々な時代・分野を専門とされている先生方からの指導を受けられます。複数の時代を学ぶことで新しい視点を取り入れられ、自分の研究にも活かすことができます。学内の図書館や学生研究室には専門性の高い資料だけでなく学術雑誌の蔵書も多く、研究をするための最適な環境が整っていると思います。

歴史学を学んだ立場だからこそ、見えてくる歴史の「魅力」や「有用性」を広く伝えることを目標に、将来は大学院で身につけた知識を活かして、歴史や文化を振興できる職に就きたいと考えています。

國學院大學 文学部 史学科 卒業
文学研究科 史学専攻 日本史学コース 在学 **相原 志保**



留学生の友人たちとの交流から日本語教育者の道へ

高校生の時に留学先のカナダの学校で日本語教育と出会いました。大学での専攻はまったく異なる分野でしたが、在学中は留学生の友人たちに日本語や日本の文化などについて聞かれることが多く、彼らとの関わりを通して「日本語教育についてもっと深く学び、日本語や日本文化を発信できるようになりたい」と考えるようになり、大学院進学を決意しました。

将来は、東南アジアやヨーロッパなど、海外で日本語教師として日本語教育に携わっていきたく考えています。その時に活かせるように、まずは自国の言語や文化をより一層学び、その上で自分自身が関心のある地域・国の日本語教育または日本語

学習者に沿ったテーマで研究をしたいと考えており、多様なテーマの中から今は“とっておき”を温めています。

本学大学院は、少人数だからこそ研究内容について深い議論ができ、学ぶ事ができます。また様々な分野の先生方から最前線の研究や日本語教育について学べる環境の良さがあります。個人的には大学時代から慣れ親しんだ國學院大學のキャンパス・環境で引き続き学ぶことも魅力の一つです。

修士課程を卒業した後は、まず国内で日本語教師として経験を積み、その後、海外で発信力のある日本語教師として活躍していきたいです。

國學院大學 文学部 史学科 卒業
文学研究科 文学専攻 高度国語・日本語教育コース 在学 **庄田 源**



自身の専門性を高めることがより良い授業につながる

私は将来、日本史の教員となって高校教育に貢献したいと考えています。大学の卒業論文執筆時に研究対象についてもっと知りたいと思ったことが大学院進学の大きな理由ですが、自身の専門性を高めることが、より良い授業を行うことにつながるのではないかと考えています。

今は、昭和期の横浜で講じられた観光政策についての研究を行っています。具体的な内容としては、現在観光地として人気のある横浜がどのように変化し、発展してきたのかを行政史料や当時の新聞を用いて考察し、その結果講じられた政策の実態や地域と観光の関係性を明らかにしていきたいです。

本学大学院には日本史に限らず幅広い歴史分野の専門家が在籍しているので、歴史を多角的に学び、専門性を高めることができます。それに加えて、学生研究室で先輩に相談がしやすく、客観性を持って研究を進めることができます。

修士修了後、教員になった際には、大学院で学んだことを活かし、学習者に、歴史に関する様々な知識に触れることの喜びや、資料をひも解いて考察することの楽しさを伝え、日本史に苦手意識を持つ人にも興味を持ってもらうことができるような授業を行いたいと思っています。

國學院大學 文学部 史学科 卒業
文学研究科 史学専攻 日本史学コース 在学 **中田 圭哉**

高度国語・日本語教育コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
高山 実佐	教授	国語教育学	国語教育実践研究・特殊研究(演習)	国語科教育における、学習者・学習材の価値・学習指導方法等の課題を考究していく
諸星美智直	教授/博士(文学・國學院大學)	日本語教育学・日本語教育史・近代日本語・ビジネス文書	日本語教育研究A・B・特殊研究A・B(演習)	日本語教科書の分析とビジネス言語学の研究法を学ぶ
菊地 康人	教授	日本語教育学・日本語学	日本語教育研究A・B(演習)	日本語教育での学習諸項目についての具体的な分析・指導法、日本語教育設計

日本史学コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
佐藤 長門	教授/博士(歴史学・國學院大學)	日本古代史、古代王権・国家の権力構造論	日本古代史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	古記録から読み解く10世紀の古代日本
高橋 秀樹	教授/博士(史学・学習院大学)	日本中世史	日本中世史研究A・B(演習)	中世の古記録を読む
矢部健太郎	教授/博士(歴史学・國學院大學)	日本中世史、戦国・織豊期の政治史・制度史	日本中世史研究A・B(演習)	中近世移行期の史料と研究方法
根岸 茂夫	客員教授/博士(歴史学・國學院大學)	日本近世史	日本近世史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	幕末維新期の藩政と史料
吉岡 孝	教授/博士(歴史学・國學院大學)	日本近世史	日本近世史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	近世村落文書の研究
樋口 秀実	教授/博士(歴史学・國學院大學)	中国近代史、日中関係史	令和3年度前期は国内派遣研究中	
多和田真理子	准教授	日本教育史、地域史	日本近現代史研究A・B(演習)	近現代日本の地域社会
林 和生	教授	歴史地理学、地域研究(中国)	比較地誌学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	幕末・明治に日本を訪れた外国人の滞在記を読み解く
吉田 敏弘	教授	人文地理学、歴史地理学、地図学	歴史地理学研究A・B・特殊研究A・B(演習) 地図学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	中近世寺社絵図の研究 寺社境内絵図の研究

外国史学コース

World History



「北朝の宗廟祭祀制度」から中国古代王朝の礼制体系を考察

私の故郷、中国の内モンゴル自治区フルンボイル市には「嘎仙洞」という洞窟があります。そこは北魏王朝を建立した鮮卑拓跋部の発祥地とされており、洞内の西壁、洞窟の入口から15メートルの所で、北魏太平真君四年の祭祀の祝文が発見されました。これがきっかけで、私は中国古代の皇帝祭祀制度について、深い関心を持つようになりました。

國學院は史学の専門性が高く、さらに私の指導教授である金子修一教授は、主に漢から唐の時代にかけての皇帝祭祀を中心とした研究を行っています。私は金子教授のご指導の元で皇帝祭祀を研究したいと思い、國學院大學大学院への入学を決めました。

私の研究テーマは、「北朝の宗廟祭祀制度」です。宗廟祭祀制度は中国古代王朝の礼制体系の重

要な部分です。胡漢融合を特徴とする北朝では、その宗廟祭祀制度はどのように形成され、またどのような特徴があるのか、私は関連史料と関連の研究成果を通して、これらを研究したいと考えています。「魏書」、「北史」などの漢文史料をよく読解し理解を深め、後漢から唐までの制度と比べて、北朝の宗廟祭祀の特徴を明らかにしたいです。

國學院大學大学院には研究に必要な資料が豊富にそろっており、資料の収集に便利です。また、大学院生専用の学生研究室があり、その資料も自由に閲覧することができます。

将来は、博士課程に進学して研究を続け、ゆくゆくは故郷に戻って大学の教員になりたいと思っています。

中南民族大学 外国語学部 日本語学科 卒業
文学研究科 史学専攻 外国史学コース 在学 張 雯雯 (チョウ・ブンブン)

外国史学コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
金子 修一	客員教授	中国古代史	東洋史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	唐代の史料の研究
江川 式部	准教授/博士(史学・明治大学)	中国中世史	東洋史研究A・B(演習)	中国古代-中世の礼制・法制と社会
神長 英輔	教授/博士(学術・東京大学)	ロシア近現代史、東北アジア近現代史	西洋史研究A・B(演習)	近現代・世界の歴史研究における「地域」と「物語」
大久保桂子	教授	イギリス近代史	西洋史研究 A・B・特殊研究 A・B(演習)	イギリス近代史研究演習

考古学コース

Archaeology

「1級考古調査士」が取得可能



遺された漁撈具から縄文人の生活や創意を復元する

私は、幼少期より考古学に興味関心を抱いています。学部2年次に本学考古学研究室が実施している居家以岩陰遺跡の発掘調査に参加したことが契機となって、より深く考古学を学び、研究を続けたいと思い、大学院へ進学することを決意しました。

動物の骨や角を素材として作られた刺突具や釣針などの「骨角製漁撈具」を対象とした漁撈の研究をしています。漁撈具の形態には、遺跡周囲の自然環境やそこに生息していた動物種に起因する違いが反映されていて、そこから地域性を知ることができます。また漁撈具は、捕獲対象となる動物種の習性を把握した上で素材の特徴を存分に活かして製作されているため、縄文人の創意を知ることができます。そうした点に漁撈研究の魅力があると感じて

います。

本学大学院では、専任の谷口康浩教授、青木敬教授をはじめ、各分野の第一人者の先生方が授業をされており、最先端の研究を学ぶことができます。全ての授業が非常に充実しており、同期生と討論を交わして、お互いの理解を深めることができるといった「学ぶ愉しさ」を味わうことができ、自分自身が日々成長していることを実感できます。また、考古学実習の一環として毎年夏に発掘調査が行われていて、現場での調査を実際に経験することもできます。

将来は、埋蔵文化財の専門職への就職を希望しています。一般の方々へ地域の文化財を保護・保存する必要性を伝えるとともに、その大きな魅力を発信したいと考えています。

國學院大學 文学部 史学科 卒業
文学研究科 史学専攻 考古学コース 在学 鈴木 大賀

考古学コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
谷口 康浩	教授/博士(歴史学・國學院大學)	先史考古学、縄文文化の研究	先史考古学研究A・B・特殊研究A・B(演習) 理論考古学(演習) 考古学実習A・B(実習)	先史考古学の研究法と実践 考古学の理論と方法の基本的問題 遺跡発掘調査の最新技術を学ぶ-先史考古学分野-
青木 敬	教授/博士(歴史学・國學院大學)	歴史考古学、古墳時代-古代の研究	令和3年度は国内派遣演習中	
古谷 毅	客員教授	歴史考古学、古墳時代の研究	歴史考古学研究・特殊研究(演習)	歴史(原史・有史)考古学の研究方法

美学美術史コース

Aesthetics and Art History



ドラクロワ作品における科学的な色彩論の影響を考察

学部生の頃から、将来は学芸員となることを目標としていました。昨今では、個別の専門性が求められることがあり、より研究を進める必要性を感じ、本校大学院へ進学をいたしました。

現在の研究テーマは学部の頃に取り組み始めた内容と繋がっており、卒業論文をより深めることが目標になっています。卒業論文で扱ったのは、『シニャックによって書かれた『ウジェーヌ・ドラクロワから新印象主義まで』における論理を考察することで、特に注目したのはドラクロワ作品に付随させられる科学的な色彩論でした。この論理の中ではドラクロワにおける科学からもたらされた色彩論は過度な強調をされており、シニャックによる新印象主義

の美術史的な位置取りを共通する性質により、より良くさせようとする意図がみとられると結論付けました。卒業論文では扱いきれなかったドラクロワにおける色彩論に対して、科学的な色彩論がどれ程影響を及ぼしたのかを、これから考察していきたいと思っています。

本学大学院には、広い研究分野の学生が集まっているため、研究分野に関わる様々な情報を知る機会が多分に与えられています。またそれだけではなく、一視点に固執せず広い視野を持つことができると期待されます。

私の研究による専門性が活きる美術館で学芸員の職につくことを目標にしております。

國學院大學 文学部 哲学科 卒業
文学研究科 史学専攻 美学美術史コース 在学 木村 太紀

美学美術史コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
小池 寿子	教授	西洋美術史、死の図像学	美術史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	ヨーロッパ中世から近世における王権の表象
藤澤 紫	教授/博士(哲学・学習院大学)	日本美術史、日本近世文化史、比較芸術学、浮世絵	美術史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	人をえがく、時代をえがく
松谷 容作	准教授/博士(文学・神戸大学)	美学・芸術学	比較芸術学A・B(演習)	イメージについての歴史的・理論的アプローチ

博物館学コース

Museology



博物館の社会における役割を災害から考える

幼少の頃から色々なものに興味があり、面白いものがたくさんみれる場所として博物館が好きでした。小学生の時に幕末維新に興味を持ち、歴史に関する職業に将来就きたいと思いついて学芸員を目指すようになりました。学部生の時に参加した調査活動を通して、文化財や資料を保存・整理し多くの人に活用してほしいと考えるようになり、より強く学芸員という職業を意識し、自らの専門性を高めたいと思いました。

短期大学時代の講義で聞いた2011年の震災における津波被害と学芸員の話きっかけに、災害と博物館というテーマに興味を持ちました。博物館の役割の一つは資料を収集・保存し、未来に伝えていくことだと考え、災害時における博物館の役割を、現在の研究テーマとしています。2019年に起き

た令和元年東日本台風では川崎市市民ミュージアムが大きな被害を受けており、博物館における防災意識の重要性を一層感じました。

私が一番影響を受けた博物館は出身地の栃木県立博物館です。人文科学と自然史を取り扱う総合博物館で、自然と人間の歴史は繋がりをを持った存在だという認識を持つきっかけになりました。博物館は多くの学問領域をカバーできる場です。

本学大学院は人文科学という視点でも文学、民俗学、歴史学、考古学、神道学、法学、経済学と色々な分野を取り入れる機会があります。将来は、本学大学院での経験を活かし、一つの資料に対して多くの視点からアプローチできる博物館を作り上げたいと思います。

國學院大學 文学部 史学科 卒業
文学研究科 史学専攻 博物館学コース 在学 小池 郁弥

博物館学コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
内川 隆志	教授	博物館学	資料保存論展示論研究A・B(演習) 博物館学専門A・B・特殊実習A・B(実習)	資料の保存と展示を考える 地域文化資源の研究
青木 豊	客員教授/博士(歴史学・國學院大學)	博物館学	資料保存論展示論研究A・B・特殊研究A・B(演習)	資料の保存と展示を考える
鷹野 光行	客員教授	博物館学	博物館史特論(講義)	博物館史から博物館の教育機能を考える



高度な専門知識・専門能力と、 問題解決のための分析力を身につける

法学研究科は、法律学・政治学に関する専門知識を修得するのみならず、みなさんが疑問に感じる問題の所在を分析し、解決の方向や具体的な説明を主体的に提示できる人材の育成を目標としています。法学研究科で指導・教育を担う専任教員は、それぞれの分野で、自らの疑問と格闘し、その解決方法やよりよい説明を提示するために思索を続けてきた研究者であり、その意味でみなさんの先輩でもあります。ですから、みなさんの疑問を正確に受け止め、みなさんと一緒に問題に取り組み、みなさんの問題意識をより深く考えるサポートを行うことができるでしょう。また、高度な専門知識を有する職業人を養成し、修了後の社会人としての活躍を促進するために、実務家教員による科目(公共政策演習・キャリアプランニング)も開講しています。

法学研究科 教育研究上の目的と方針(3つのポリシー)

法学研究科の教育研究上の目的

法学研究科は、学部教育を基礎とし、法学及び政治学に関する、専門的分析能力を用いて先端的問題を総合的に分析・判断し社会的諸問題の解決に貢献する者、及び専攻分野に関し独創的研究を行い指導する能力をもつ研究者を養うことを目的とする。

法学研究科の博士課程教育実施方針(3つのポリシー)

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

博士前期課程においては、学部教育における幅広い教養と基礎的な専門教育を踏まえ、法学または政治学についての高度な専門知識を十分に自らのものとし、主体的で独自の観点から現代社会における法的・政治的事象を分析する能力を示す成果をあげた者に対し、修士の学位を授与する。

博士後期課程においては、博士前期課程で修得した高度な専門知識と主体的で独自の姿勢に加えて、自らの研究成果を纏めるための研究計画を立案し、着実に実行することができ、かつ、実行のために必要とされる資料収集、読解能力、語学力及び情報処理技術などを身につけ、今後、専攻分野において独創的研究を継続的にを行い、後進を指導する能力を身につけたことを示す成果をあげた者に対し、博士の学位を授与する。

教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

博士前期課程においては、学生が専門知識を修得し、主体的で独自の観点から現代社会における法的・政治的事象を分析する能力を獲得できるように、指導教員が担当する授業科目、研究指導及び論文指導演習を開講する。加えて、関連諸領域における法的・政治的な諸問題についても専門知識を修得できるように、指導教員以外が担当する授業科目を開講する。

博士後期課程においては、学生が専攻分野に関するより高度な専門知識を修得し、より独創的かつ自立的な研究活動に必要な高度な専門的技術を含めた研究能力を獲得できるように、指導教員が担当する授業科目、研究指導及び論文指導演習を開講する。

なお、新たに生起する問題や先進的な研究動向に応じた学修の機会を確保するために、特殊研究(演習)を開講する。

入学者受入れ方針 (アドミッション・ポリシー)

博士前期課程においては、学部教育における幅広い教養と基礎的な専門教育に基づいて、価値観と利害関係が多様化する現代社会に生起する諸問題を法学または政治学の観点から総合的に分析・判断し、それらの解決に主体的に関わろうとする積極的な姿勢を持つ者を受け入れる。とりわけ、社会人としての経験を踏まえて具体的な研究課題を見いだしている者を受け入れる。

博士後期課程においては、博士前期課程修了程度の能力を有し、加えて専門領域においてさらなる独自の研究計画に基づき継続的研究を志向し、それを遂行するに足る能力と技能を備えた者を受け入れる。

学部3年生の合格後の選択肢 ~ 飛び入学と先取り履修 ~

学部3年生が「一般入試」「学内成績選考入試」「学内論文選考入試」のいずれかに合格した場合、2つのコースのどちらかを選べます。

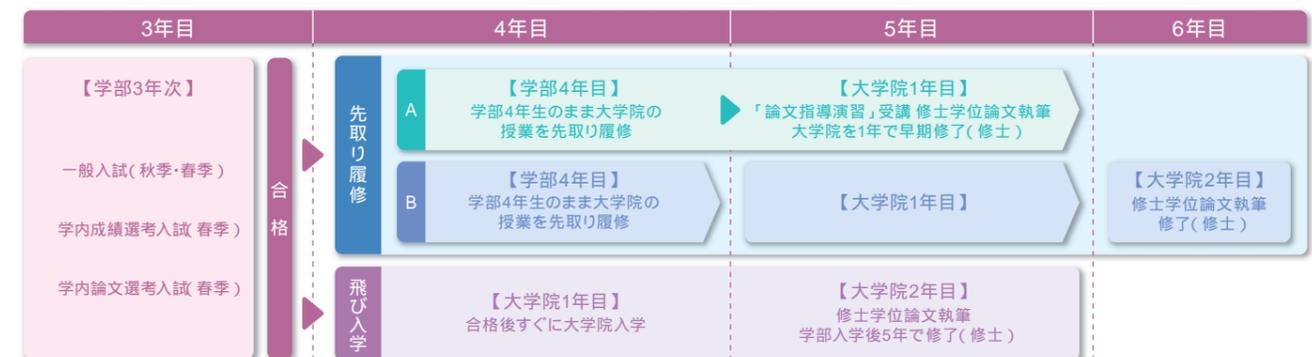
先取り履修

合格後に学部4年生のまま大学院の授業を先取り履修し(10単位まで)、1年後に学部を卒業して大学院に入学。

- A 指導教員と相談の上、修士1年目に残りの修了単位を修得、論文指導演習を受講し修士学位論文(修士論文またはプロジェクト・ペーパー)を提出し合格すれば、1年で早期修了することもできます。
- B 通常の2年間の大学院博士前期課程の教育を受けて修了することもできます。

飛び入学

学部卒業を待たずに合格後すぐに大学院に入学し(飛び入学)、2年間の大学院博士前期課程の教育を受けて、(学部入学から5年間で)修士の学位を取得できます。



教員メッセージ Message



Takahashi Nobuyuki

実務に活かせる深い学びを

当然のことですが、「行政法」の知識は公務員試験においても実務においても極めて重要になります。公務員が様々な権限を行使する際の「拠り所」が行政法に他ならないからです。規制権限を行使する際にも、社会保障等の給付行政を担う際にも、行政法を正しく理解して、法令に即した決定をとることが行政の公平性を確保するためにも、市民からの信頼を得るためにも、強く求められています。

「行政法実践研究」の授業では、各種の公務員試験の過去問題をベースにしつつ、関連する法理論や判例を学んでいきます。例えば、一つ一つの判例の背景にある状況や理論を学ぶことは、一見すると効率が悪く思えます。しかし、深く学ぶことはそれだけ記憶に強く残りやすくなるので、結果として成績向上につながります。

また、判例や学説をベースにして、現実の行政が抱えている様々な問題についても取り組んでいきます。特に、解釈論だけでは解決困難な問題については、法律や条例を改正するという立法上の手当も必要になることから、立法論の基礎も学びます。

これらの知識は、公務員試験に合格するためだけでなく、実務に就いてからも役立つでしょう。公務員として自らの能力や知識を最大限発揮できるように、大学院の場で研鑽を積んでもらいたいと思っています。

少し難しく堅苦しい説明になってしまいましたが、実際の授業では、積極的に学ぶ意欲を持てるように、様々な工夫をほどこしています。皆さんの夢がかなうように、私達教員も励んでいきますので、一緒に頑張りましょう!

國學院大學大学院法学研究科 公務員養成コース

國學院大學大学院法学研究科では、新しく「公務員養成コース」を開設しております。公務員養成コースでは、公務員を志望する学生が夢を実現できるよう、公務員試験に合格し、かつ、就職後も学術的基礎に基づいた活躍ができる人材を養成することを目指します。大学院に在籍して更なるトレーニングを積んで、公務員試験合格を勝ち取りましょう！

公務員養成コースの特徴

公務員養成に特化した講義(「実践研究」科目)を多数開講し、受験や実務に役立つ知識や能力を修得することを目指します。

「公共政策演習」や「キャリア・プランニング」では、現役の公務員や公務員OB・OGを講師として招き、面接試験の模擬実践や実務に向けたトレーニングを行います。

プロジェクト・ペーパーを執筆することで、政策上の課題を分析し、解決策を提案する能力を身に着けます。

学部4年次に「先取り履修」を用いることで、大学院を1年間で修了することもできます。

公務員養成コースのカリキュラム

実践研究科目

従来の「研究」科目(憲法研究・政治学研究等)に加えて、公務員試験の主要科目について「実践研究」科目(憲法実践研究・政治学実践研究等)を開講します。「実践研究」科目では、公務員試験の過去問を素材として、重要な理論・判例・法令を学んだり、答案の執筆方法をトレーニングしたりします。

実践研究科目

憲法実践研究
商法実践研究

行政法実践研究
外国法実践研究

国際法実践研究
政治学実践研究

刑法実践研究
など

民法実践研究

実務家教員による科目

「公共政策演習」では、地方自治体の公務員が講師となり、地方自治体が抱える政策問題を材料に、解決策を検討します。現役の公務員や公務員OB・OGと議論することで、面接試験の対策にもなります。

「キャリア・プランニング」では、公務員OB・OGが講師となり、あるべき公務員像や公務員試験で求められるものについて考えます。公務員としての資質を磨く機会になります。

プロジェクト・ペーパー

修士課程修了の要件として「プロジェクト・ペーパー」を執筆します。指導教員の指導の下で、自己の関心のある政策上の課題に関し、それを解明するために必要な学問分野の学術的知見を踏まえて、政策提言を行うことが目的となります。プロジェクト・ペーパーで特定の政策課題について深く研究することは、実務家としての能力を飛躍的に高めることにつながるでしょう。

公務員養成コース Q & A

Q 学部を卒業した後に公務員を再受験することを考えていますが、公務員養成コースに進学するメリットがあるのでしょうか？

A 再受験で内定を得るためには、しっかりした計画と強い意志が必要になります。本コースでは、教員の指導の下、志を同じくする仲間達と切磋琢磨して学び続けることができます。また、より専門性の高い知識を身に着けて修士号を取ることができます。

Q 公務員予備校とはどのような違いがあるのでしょうか？

A 本コースでは、合格のための受験テクニックの指導に偏るのではなく、試験問題の背景にある理論や判例について学ぶことで、より理解を深めることができます。また、公務員として働き始めた後に必要となる知識や能力を磨くことができます。

修了までのプロセス

【2年修了の場合】

修士1年目

大学院入学(4月)
プロジェクト・ペーパー検討開始
公務員試験受験(1年目)

修士1年目には、実践研究科目を履修して受験対策に励むと同時に、指導教員の指導の下、プロジェクト・ペーパーの検討も始めます。(修士1年目に公務員に内定した場合には、1年修了も可能です。)

修士2年目

公務員試験受験(2年目)
論文指導演習
プロジェクト・ペーパー執筆

修士2年目には、公務員試験を受験しつつ、プロジェクト・ペーパーの完成を目指します。修了単位(30単位)を修得して、プロジェクト・ペーパーが完成すれば、修了となります(修士号授与)。

大学院修了

実践研究科目を履修することで、公務員試験の対策をしながら、修了要件を満たすことができます。

公務員へ

【3年次入試・1年修了
(3年次合格者先取り履修制度)の場合】

学部3年目

春季試験合格(2月末)

3年次合格者は、大学院への入学を1年延期して、学部在籍し続けることができます。

学部4年目

大学院入学保留(学部在籍)
公務員試験受験(1年目)
先取り履修(10単位まで)
プロジェクト・ペーパー検討開始

4年生の時には、学部卒業を目指しつつ、大学院の科目を「先取り履修」することができます。先取り履修した科目は、「10単位」まで大学院の修了単位として認定されます。また、指導教員の指導の下、プロジェクト・ペーパーの検討も始めます。

修士1年目

大学院入学(4月)
公務員試験受験(2年目)
プロジェクト・ペーパー執筆

大学院入学後は、公務員試験受験対策を進めつつ、プロジェクト・ペーパーの完成を目指します。修了単位(30単位)を修得すれば1年間で修了することも可能です。

大学院修了

実践研究科目を履修することで、公務員試験の対策をしながら、修了要件を満たすことができます。

公務員へ

Q 大学院に進学すると、学費等の経済的負担がかかってしまうのが心配です。

A 本学の大学院では、学生の経済的負担を減らすために、各種の奨学金制度を用意しています。また、法学研究科独自の奨学金もありますので、経済的負担を抑えることができます。

Q 3年次入試の制度があると聞いたのですが？

A 学部3年生の時点で大学院への進学を希望する場合には、3年次の春季入試(2月実施)を受験することができます。合格すると、大学院への入学を1年延期して、学部4年生の時に大学院の授業を先取り履修することができます(3年次合格者先取り履修制度)。学部卒業後に大学院に入学してからは、1年間で修了を目指すこともできます(早期修了)。



自らの「答え」を究めよう

IOT(Internet of Things)は私たちの生活にかなり浸透してきていますし、人工知能やロボットの研究や実用化の進展も目覚ましいものがあります。他方、これらは私たちの生活に少なくない変化をもたらすだけに、これらにかかわる法とその研究の重要性は今後いっそう高くなります。「電波法制・医療法制・道路交通法制等々によるこれらの促進と規制はどうあるべきか」、「これらを活用した防災・減災型のまちづくりはどうあるべきか」、「技術革新を進めつつ個人情報保護を貫徹するにはどうすべきか」……etc. 「IOT・人工知能・ロボット等の現代技術に対して法はどのように向き合うべきか(向き合えるか)」という問いへの解答の探求は、まだまだ途上にあります。

法律学の世界では、このようにいまだ「解決」されていない「問題」や日々生じつづけるさまざまな「問題」を「解決」するため、多様なアプローチから自らの「答え」を導き出すことが求められますし、このことこそ法律学の醍醐味であるといえます。

大学院とは学究の場です。そして、大学院での学究と

は、それまでの学問的な積み重ねに基づいて、自らの力で「問題」を発見してこれを「解決」に導けるような「答え」を示すことであるように思います。

とりわけ、法学研究科では、公務員として必要な能力を身につけ、修了後には実際に公務員として活躍することを目標とする方に向けて、令和2年度から新たに公務員養成コースを設置しました。学究の成果として得られた自らの「答え」を公務員の立場で実現することができるよう、一緒に頑張っていきましょう。

法学研究科 法律学専攻 教授 **川合 敏樹**
Kawai Toshiki



Ho Duc Minh

国際裁判判決の執行方法について法的側面からアプローチ

私は、自分が外国人ということもあって学部では国際法を中心に授業を履修しました。その過程で国際裁判判決について興味や疑問を抱くようになり、自分の疑問を明らかにするためには、より専門的な知識を身につけ、思考力や分析力などを磨く必要があると思い、大学院への進学を決めました。

国際法学では一般に「国際裁判判決は法的拘束力があっても強制執行はできない」と指摘されるに留まっていますが、国際社会の中で大きな力を持つ国が判決を無視し続けることで国際秩序が乱れるのではないかと疑問を抱き、研究テーマとしました。国際社会での国際裁判の位置付けと、国際問題に対して、より実効性のある執行方法について、法的側面からアプローチできるのではないかと考えています。

私にとって國學院大學大学院法学研究科のいいところは、少人数であるところです。授業で先生や他の院生の意見を聞く時間や議論する時間がたくさんあり、それによって、自分にはなかった考え方や新しい発見があります。また、幅広い年代の方々がいるので、皆さんの着眼点などが興味深く、とてもいい刺激になっています。

私は大学院で培った法律の専門性と能力、また、ベトナム語と日本語の両方を使えることを活かして、在日ベトナム人や在越日本人がより良い環境で生活し、仕事をする事ができるよう、ベトナムと日本との良好な友好関係の架け橋となって国際社会に貢献したいです。

國學院大學 法学部 法律学科 卒業 **ホードクミン**
法学研究科 法律学専攻 在学



Unno Shinsuke

研究生活で培ったことは実社会でも役に立ちます

学部入学当初より研究者志望でしたが、ご指導いただいた水谷三公先生に政治学の魅力や、政治学を志す者の心得を学び、改めて思いを強くしたことで、國學院大學大学院への進学を決めました。

在学中は、第一に永森誠一先生、藤嶋亮先生の下で比較政治学を専攻し、旧ソ連地域をフィールドに政治体制を研究しました。もう一つは、戦後日本を代表する政治学者、岡義達、京極純一両氏の門下で、その学統を継承されていた永森先生の影響下において、岡、京極両先生の理論を軸に「政治学とは何か」を考察する「政治原論」にも関心を寄せ、深く掘り下げました。

本学大学院は学生の興味のある分野について、

親身にご指導下さる先生が多く、講義内容にかかわらず、一を聞くと十を教えていただきました。さらに他研究科や他専攻の学生とも交流できるので、「学際的」な研究生活を送ることができ、研究の幅も厚みを増しました。

今は研究者とは別の道に進みましたが、当時学んだ理論は机上の空論ではなく、モノの見方や考え方は実社会でも役に立ちます。今でも休日や空き時間などは読書を中心に政治原論の研究を進めていますが、法学研究科では『法研論叢』という雑誌が発行されており、修了生は寄稿資格があるので、将来は論文を書ければいいともしよかに考えています。

法学研究科 法律学専攻 博士前期課程 修了 **海野 慎介**
株式会社 産業経済新聞社 東京本社 夕刊フジ編集局 報道部

法学研究科 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
長又 高夫	教授/博士(法学・國學院大學)	法典編纂史・法思想史	日本法制史研究A・B(講義)	分国法を講読する
榎 剛	教授	英米法、イギリス法制史	外国法研究A・B(講義)	英米の公文書を読む
植村 勝慶	教授	憲法	憲法研究B(講義)	憲法の基本判例の検討
平地 秀哉	教授	憲法	憲法研究A(講義)	違憲審査制の研究
高橋 信行	教授/博士(法学・東京大学)	公法(行政法)	行政法研究B(講義)	行政法判例研究
川合 敏樹	教授	行政法、環境法	行政法実践研究(講義)	行政法・環境法の文獻・判例研究
宮内 靖彦	教授	国際法、国際組織法	国際法研究A(講義)	国際法の問題の分析方法
甘利 航司	教授/博士(法学・一橋大学)	刑法、刑事政策	刑法研究B(講義)	犯罪成立の主観的要素
中川 孝博	教授/博士(法学・一橋大学)	刑事訴訟法	刑事訴訟法研究A・B(講義)	刑事訴訟法の最先端
佐藤 秀勝	教授/博士(法学・一橋大学)	民法	民法研究A(講義)	民法・財産法の研究
門広乃重子	教授	民法	民法研究A(講義)	家族法判例研究
一木 孝之	教授	民法	民法研究B(講義)	民法財産法の判例及び判例研究
岡田 康夫	教授	民法	民法研究A・B(講義)	民法の諸制度・特別法・判例等
佐古田真紀子	教授	民事訴訟法	民事訴訟法研究A・B(講義)	民事訴訟法の論点につき、判例・文獻を精読した分析
鈴木 達次	教授	商法	商法研究B(講義)	商法争点研究
森川 隆	教授	商法、会社法	商法研究A・B(講義)	会社法事例研究
本久 洋一	教授	労働法	労働法研究A(講義)	労働者・使用者の権利義務論の研究・労働者規則の複数性(マルチチルド)の問題
上神 貴佳	教授/博士(法学・東京大学)	政治学、現代日本政治、政党、選挙、政策	政治学研究A・B(講義)	比較政治学の新潮流
藤嶋 亮	教授	政治学、比較政治	政治学研究A・B(講義)	比較政治学の主要な概念やアプローチ、理論
坂本 一登	教授/法学博士(東京都立大学)	日本政治史	日本政治史研究A・B(講義)	明治初期の行政と立法
羽田 真司	教授	政治思想史、政治哲学、政治理論	西洋政治思想史研究A・B(講義)	Hannah Arendt『The Origins of Totalitarianism』を読む



経済・経営・会計・税法...
経済をとり巻く全領域をカバー

経済学研究科 教育研究上の目的と方針(3つのポリシー)

経済学研究科の教育研究上の目的

経済学研究科は、学部教育を基礎とし、経済及び経済学に関する、専門的知識と能力をもつ職業人、及び豊かな学識と創造的な研究能力をもつ研究者を育成することを目的とする。

経済学研究科の博士課程教育実施方針(3つのポリシー)

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

博士前期課程においては、学部教育における経済と経済学に関する基礎力と日本経済に関する知見を踏まえ、経済学、経営学、会計学または税務に関わる専門分野について十分な学力があると認定された者に対して、修士の学位を授与する。

博士後期課程においては、博士前期課程で求められた最先端の専門的知識に加えて、理論的革新や新しい知見の発見などの独創的研究を行い、今後、専攻分野において研究・教育する能力を身につけたことを示すことができる成果をあげた者に対して、博士の学位を授与する。

教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

博士前期課程においては、指導教員が担当する授業科目および論文指導を通じて、自己の専門領域における専門的知識を学ぶことと並行し、自己の専門領域の関連諸領域について授業科目の履修を通して学ぶこと。さらにアカデミック・コース、キャリア・コースの各コースを選択した者は、当該コースの選択必修科目から所定の単位数の科目を修得すること。

博士後期課程においては、指導教員が担当・指定する授業科目を修得するとともに、指導教員のもとで研究指導を受けること。

入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)

博士前期課程、博士後期課程ともに、本学の建学の精神、そして本研究科が定める学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)と教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を十分に理解して、以下の資質・志向をもった者を受け入れる。

博士前期課程においては、学部教育における経済と経済学に関する基礎力と日本経済に関する知見に基づいて、以下いずれかの志向を持った者を受け入れる。

アカデミック・コースでは、博士後期課程への進学を目指す者や、博士前期課程修了後に専門的で深い学識を必要とする職種を目指す者。

キャリア・コースでは、博士前期課程を修了し、税理士などの資格取得を目指す者。

博士後期課程においては、博士前期課程における経済と経済学に関する専門的知見に基づいて、博士の学位を取得し、課程修了後は研究職を目指す者。

税理士試験税法2科目免除に対応したカリキュラムと指導体制 社会人でも学べる土曜日を中心とした講義で多くの修了生を輩出

修士の学位等取得による研究認定申請が行える講義・指導

税理士試験は、税法3科目と会計学2科目の5科目すべてに合格する必要があります。

しかし、大学院博士前期課程を所定の単位を修得して修了し、その修士の学位等取得に係る研究について国税審議会の認定を受けた場合、税法の2科目に合格したものとみなすとされています。

本研究科は.....

税法に属するカリキュラムを準備

税法に属する科目等の研究論文の作成等に対する指導

土曜日を中心とした講義

などにより、大学卒業後引き続き勉強される方のほか、社会人の方の学びも支援する体制を整えています。多くの方が「税法2科目免除」を得て、実社会で活躍されています。

充実した奨学金制度を準備

大学院に通いながら、同時に税法科目や会計科目合格のために専門学制度を準備しています。この奨学金は、「國學院大學奨学金制度」や「日本校へ通う学生も多くいます。國學院大學大学院では、このためのサポートと学生支援機構奨学金(P4参照)と併用することもできます。して、一定の要件のもと指定する外部専門学校の受講を支援する奨学金

働きながらも履修等が可能な土曜日を中心とした講義

..... キャリア・コースで「税理士」を目指す



修了生メッセージ Message



マーケティングの観点から中国小売革命について明らかに

学部時代に宮下雄治先生のマーケティングの講義を受け、とても興味深く、この分野について学ぶことが楽しかったことがきっかけで、より高度な経済専門知識を身につけて、自分の興味があり、基礎を学んできた分野で自分の能力を活かしたい、社会に貢献したいと思い、マーケティングについて専門的に学べる経済学研究科への進学を決めました。

私の研究テーマは「中国食品小売業におけるスーパーマーケットの歴史的発展と新展開 グローサラントを中心に」です。中国の食品小売業の歴史から発展変遷過程をたどり、ここ数年で生じている中国の小売革命の現状、特に販売方法や競争に焦点を当てて論じました。中でもスーパーマーケットとレストランを一体化させた「グローサラント業態」について、その独自の販売方法や顧客へのサービスな

どについて明らかにしています。國學院大學大学院では、貴重な品を所蔵する博物館や、蔵書数の多い図書館を、研究に役立てることが出来ます。また、國學院大學大学院の先生は魅力的な生き方をしている方が多く、そのことも本学院で学問を志す決心がついた理由でもあり、今でも、宮下雄治先生と中馬祥子先生との出会いを鮮明に思い出します。

将来はマーケティング知識を活かして、国際貿易会社を起業したいと考えています。中国と日本の架け橋になり、ビジネスの面だけでなく、文化交流や日本にいる外国人の方たちの力となれるよう、日中の友好関係にも力を注いでいきたいです。

経済学研究科 経済学専攻 博士前期課程 修了
合同会社 ながしろ

王 雪微



「意思決定」に必要なタックスプランを提供 職業会計人への仲間入りを國學院から

「税」は我々にとって非常に身近な存在です。所得税、法人税や消費税だけでなく相続税、贈与税など新聞紙上や雑誌などに「税」の情報は溢れています。このことは、「税」が、今日、我々の経済活動のあらゆる局面に影響を与えていることの証左にほかなりませんが、裏を返せば、会社経営者に限らず、一般の方々であっても重要な経済取引を行う場面では、それによって招来するであろう「税」を考慮して意思決定をすることが求められる機会が多くなってきていると理解することができます。

税理士などの職業会計人又はそれを目指す者は、このような「意思決定」をしなければならぬ多くの人に対して、複数の選択肢を提供できるように、税法を正しく理解することはいうまでもありませんが、その他の関係法律や経済取引に係る情報なども収集・整理して、自らの意見をその根拠とともに提示できる重要な責務を担える立場として活躍できる可能性があります。しかも、このよ

うな流れは、経済取引の複雑化、国際化をはじめ会社自体が社会的存在として求められる傾向が一段と高まっていることなども併せて考えると皆さんが活躍できる場は、今後、確実に広がっていくと思われま

す。我々は、皆さんが職業会計人として活躍するための「考える力」を國學院で養えられるように、所得税法及び法人税法などの基本的な理解から、これら所得税法等の各論点に係る学説や裁判例等の検討を通じた論文作成指導まで確実に行っていきます。

経済学研究科 経済学専攻 教授 佐藤 謙一
Sato Kenichi



実務の世界でいち早く活躍するため大学院に

大学卒業後は、税理士試験の勉強を続けながら税理士補助として税理士法人で勤務していましたが、税理士資格をいち早く取得し、本格的に税務の世界で活躍したいと思うようになり、母校である國學院大學大学院への進学を目指すようになりました。

現在、私は「給与所得該当性の判断基準に関する一考察 事業所得との区分を中心に」というテーマで論文を執筆しています。就業形態が多様化し、伝統的な給与所得者及び事業所得者の概念に当てはまらない、いわゆるグレーゾーンの働き方をしている者が増加している現在の我が国においては、給与所得と事業所得とを区分する際の明確な判断基準を示すことが求められていると考え、本テーマ

を選択しました。本学大学院は、渋谷という好立地にあることはもちろんのこと、1学年が比較的小人数であるため、きめ細やかな指導を受けることができます。キャリアコースに関していえば、授業が土曜日中心のため、平日は仕事や資格の勉強に専念することができる点だけでなく、税理士試験に1科目以上合格している学生に対する給付型の奨学金制度(税理士試験支援奨学金)がある点も、魅力があるのではないのでしょうか。本学大学院で得た幅広い知識と思考力を活かし、修了後はクライアントのニーズに適切に応じることのできる税理士として活躍したいと考えています。

國學院大學 経済学部 経済学科 卒業
経済学研究科 経済学専攻 キャリアコース 在学 山下 和子



一生続けられる税理士としてキャリアプランを形成したい

大学時代に何か資格を取得したいと考え、税理士の勉強を始めました。國學院大學大学院の税法2科目が免除される制度に魅力を感じたことも大きいですが、税理士試験の勉強だけではなかなか身につけることができない「考える力」を身につけたいと考え、國學院大學大学院へ進学いたしました。

公益法人等の中でも宗教法人に焦点をあて、研究しました。宗教法人の場合、収益事業を除き課税されないこととなった制度の沿革を辿って調べ、宗教法人を「原則課税」とすべきか否かという点を考察しました。本テーマは指導教授と相談し、決定したのですが、神道を母体とする本学ならではの研究テーマだったと感じています。

本学大学院は1学年が少人数であるため、教授が学生を一人ひとり見てくれます。そのため、論文についても細部までご指導いただくことができました。本研究科で学んだ税法や判例を読み解く力も現在の業務に繋がっています。また、土曜に講義が集中していることもあり、税理士試験の勉強の方にも集中できました。

税理士を志した理由の一つに、一生続けることができる仕事という点があります。一時的に業界から離れた場合であっても復帰しやすく、また、年齢や場所にも左右されずに自分のライフプランに合わせて働くことができる職種だと感じています。今後も税務業界に携わりながら、自分のキャリアプランを形成していきたいと思っています。

経済学研究科 経済学専攻 博士前期課程 修了 北島 あゆみ
KMPG税理士法人

経済学研究科 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
編谷 圭	教授/博士(経済学・一橋大学)	マクロ経済学、公共経済学	令和3年度は国内派遣研究中	経済理論史研究
尾近 裕幸	教授	理論経済学、オーストリア学派経済学、比較経済システム論	経済学史特論B・研究B(講義)	金融工学(Financial Engineering)の研究
土田 壽孝	教授	金融論、現代ファイナンス、ファイナンス・エンジニアリング、マクロ経済、ミクロ経済	貨幣金融特論A・研究A(講義)	
根岸 毅宏	教授/博士(経済学・東京大学)	財政学	財政学特論A・研究A(講義)	租税論と日本の税制を学ぶ
橋元 秀一	教授	労働経済学、社会政策、労務管理論、労働調査論	令和3年度は国内派遣研究中	
高橋 克秀	教授	アジア経済論、グローバル経済論	国際経済特論B・研究B(講義)	中国経済史
中馬 祥子	教授	発展途上国、国際経済、環境・開発問題、女性労働論	国際経済特論A・研究A(講義)	資本主義世界経済と開発問題
細井 長	教授/博士(経営学・立命館大学)	国際経済学、中東地域経済	国際経済特論B・研究B(講義)	国際資本移動・多国籍企業論
水無田 氣流	教授	文化社会学・ジェンダー論/社会関係の内実を文化現象より検証	社会政策特論A・研究A(講義)	ダイバーシティ(多様性)を基軸とした異文化理解・社会的包摂研究
中泉 真樹	教授	応用ミクロ経済学、産業組織論、公共経済学、医療経済学	社会政策特論B・研究B(講義)	医療経済学研究
小木曾 道夫	教授/文学博士(上智大学)	組織社会学、産業社会学	社会政策特論B・研究B(講義)	社会調査データの初歩的・高度な分析
田原 裕子	教授/博士(学術・東京大学)	地域社会問題、高齢社会と社会保障	社会政策特論A・研究A(講義)	都市間競争における渋谷の位置づけを考える
大西 祥恵	教授/博士(経済学・大阪市立大学)	社会政策、労働経済、マイノリティ研究、貧困、社会的排除	社会政策特論A・研究A(講義)	労働市場における不利な立場になる人々についての実証研究
杉山 里枝	教授/博士(経済学・東京大学)	日本経済史、経営史	経済史特論B・研究B(講義)	戦前期日本の財閥に関する文献・資料講読
宮下 雄治	教授/博士(経済学・國學院大学)	マーケティング論、商業・流通論	経営学特論A・研究A(講義)	現代企業の経営とマーケティング - 現代消費社会の理解と企業対応 -
小野 正人	教授/博士(経済学・國學院大学)	ベンチャービジネス、新事業創造、産業企業研究	演習・他	企業分析をメインとして調査研究力を養う
野村 一夫	教授	メディア文化論、社会理論、医療文化論、情報倫理	経営学特論A・研究A(講義)	社会知の理論
星野 広和	教授/博士(経営学・東北大学)	経営管理論、経営組織論、経営戦略論	経営学特論A・研究A(講義)	現代企業の経営課題 - 製品イノベーションと組織学習 -
金子 良太	教授	財務会計、非営利法人会計、公会計	会計学特論B・研究B(講義)	財務会計や公会計の基本的な論文や会計基準について学んでいく
佐藤 謙一	教授	所得税、租税手続、租税争訟	税務特論	所得税等における実務上の論点とその解説
山本 健太	教授/博士(理学・東北大学)	経済地理学、都市地理学	経済政策特論A・研究A(講義)	世界都市経済の展開とその特徴
尾崎 麻弥子	准教授	西洋経済史	経済史特論A・研究A(講義)	近代ヨーロッパの流通に関する文献・資料講読
高木 康順	准教授	マクロ経済学、計量経済学、	計量経済学特論A・研究A(講義)	計量経済学における経済理論とデータを結びつける化学方法論と数理統計学を学ぶ
東海林 孝一	准教授	会計学	会計学特論B・研究B(講義)	制度的原簿計算の批判的検討
中田 有祐	准教授	財務会計、国際会計	会計学特論B・研究B(講義)	財務会計理論、国際会計の歴史と現状
藤村 和男	客員教授	税法実務	税務特論(講義)	法人企業の税法実務の論点
田内 彦一郎	客員教授	税法実務	税務特論(講義)	相続税の実務と論点

講義・演習科目は変更になる場合もあります。

入学定員と収容定員

研究科名	専攻名	前期課程		後期課程		総収容定員
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	
文学研究科	神道学・宗教学専攻	20	40	4	12	52
	文学専攻	30	60	10	30	90
	史学専攻	40	80	10	30	110
	計	90	180	24	72	252
法学研究科	法学専攻	10	20	5	15	35
経済学研究科	経済学専攻	10	20	5	15	35
合計		110	220	34	102	322

キャリアサポート

大学院修了後の進路として、教員や専門職以外にも、一般企業への就職活動を行う人も多くいます。キャリアサポート課では、企業セミナーや学内企業説明会等を開催する一方、就職活動の悩み全般から模擬面接等の実践対策まで幅広くアドバイスしています。一般企業では、大学院の修了予定者も「新卒」として扱われますので、学部学生と同様にキャリアサポート課を活用することをお勧めします。



就活スタートガイド
4～6月
本格的な就職活動の開始に向けて、効率的な動き方のアドバイスに加え、就職情報サイトの登録などを行います。

模擬面接指導会
12・2月
大手企業の人事担当者を迎え、本番に近い環境で個人・集団面接の実践的トレーニングを行います。

企業セミナー
10～11月
期間中ほぼ毎日、各業界を代表し、個別説明会では予約が取れない超大手優良企業の採用担当者が、業界および企業の説明を行います。

学内合同企業説明会
2月
本学の学生を採用する意欲の高い企業の担当者と直接話せる機会、1日で多くの企業と出会うことができます。



研究環境

21世紀COEプログラム「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成（平成14年度～18年度）、ORC整備事業「モノと心に学ぶ伝統の知恵と実践（平成19年度～23年度）」の展開を踏まえ、研究開発推進機構と大学院が連携して特色ある研究の充実と成果の発信を行っています。大学院学生も共同研究プロジェクトに参加するなど高度な研究能力の向上を図っており、これまでに多くの若手研究者を輩出しています。

令和3年度 研究開発推進機構 事業一覧

機関	研究代表者	研究課題
日本文化研究所	平藤 喜久子	デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信
	松本 久史	「國學院大學 国学研究プラットフォーム」の成果公開とデータベース再構築
学術資料センター	内川 隆志	博物館収蔵品の資料化とデジタル公開に関する研究
	笹生 衛	神道関連資料の整理分析と神道史の再検討
校史・学術資産研究センター	齊藤 智朗	國學院大學における自校史研究とアーカイブの活用
		國學院大學における学術資産研究の体制整備
研究開発推進センター	松本 久史	研究開発推進センター研究事業
		渋谷の歴史・民俗・宗教に関する研究
	谷口 雅博	神道と日本文化の創造的「古典学」—令和の新しき国学研究— 基盤整備事業
	西村 幸夫	「地域マネジメント研究センター」設置準備事業
國學院大學博物館	笹生 衛	國學院大學博物館事業

令和2年度「國學院大學特別推進研究助成金」採択課題一覧

No.	研究代表者	(職位・所属)	研究課題名
1	大西 祥恵	教授 経	労働組合による労働者供給事業の普及に関する研究
2	神事 努	准教授 人	投球制限ルールにおけるテラーメード型評価ロジックの開発
3	原 英喜	教授 人	子どもの自発的な運動行動と認知機能の発達過程の分析

令和3年度 大学院特定課題研究

No.	研究代表者	(職位)	研究課題
1	山田 利博	教授	現代ポップカルチャーにおける異界—日本人の深層意識を探る
2	諸星 美智直	教授	日本語学習者における自然な発話と文体の研究
3	西岡 和彦	教授	神社所蔵漢文文献の発掘・解説・評価
4	井上 明芳	教授	森敦文学の可能性の探究

令和2年度 科学研究費助成事業採択者一覧

職位は令和2年度当時のもの。

No.	事業区分	研究科目	研究代表者(職位・所属)	研究課題番号	研究課題名
1	補助金	基盤研究(A)	谷口 康浩 教授 文	17H00939	更新世・完新世移行期における人類の生態行動系と縄文文化の形成に関する先史学的研究
2	補助金	基盤研究(A)	寺本 貴啓 准教授 文	19H00624	小学校におけるCBTを活用したテストモデルの開発と能力測定の有効性に関する研究
3	補助金	基盤研究(A)	西村 幸夫 教授 研	16H02382	ユネスコ「歴史的都市景観に関する勧告」後の都市経営戦略確立に関する研究
4	補助金	基盤研究(B)	多和田 真理子 准教授 文	17H02671	小学校区・中学校区を単位とする地域社会の文化構築過程に関する歴史的研究
5	補助金	基盤研究(B)	平藤 喜久子 教授 研	18H00615	日本宗教教育の国際的プラットフォーム構築のための総合的研究
6	補助金	基盤研究(B)	上神 貴佳 教授 法	17H02481	アジア太平洋地域における比較政党政治のための基礎的研究
7	補助金	基盤研究(B)	浅野 春二 教授 文	20H01184	道教の比較研究から見るヤオ族儀礼文献学の構築
8	補助金	基盤研究(B)	松本 久史 教授 神	20H01189	近世中期復古神道形成過程の史料的研究
9	補助金	基盤研究(B)	根岸 茂夫 教授 文	20H01315	戦前期東京における住宅開発と生活空間の変容 - 東京府渋谷区を事例に -
10	基金	基盤研究(C)	藤野 寛 教授 文	19K00041	アドルノの歴史哲学 - 美学との関係において
11	基金	基盤研究(C)	荻田 真司 教授 法	16K03483	後期マッキンバーの「社会科学」論
12	基金	基盤研究(C)	夏秋 英房 教授 人	17K01912	地域教育・保育支援プラットフォームの構築過程の研究
13	基金	基盤研究(C)	山本 健太 教授 経	17K03256	わが国縁地域における伝統芸能の現在
14	基金	基盤研究(C)	甘利 航司 教授 法	17K03435	GPSテクノロジーを使用した犯罪者監視システムの我が国への導入可能性の検証
15	基金	基盤研究(C)	星野 広和 教授 経	17K03892	製品事故・リコール情報の収集・処理・伝達・学習プロセスに関する経営学的研究
16	基金	基盤研究(C)	斎藤 こずゑ 教授 文	17K04369	映像メディアによる子どもの表象 - 子どもの権利と研究倫理の検討
17	基金	基盤研究(C)	神長 美津子 教授 人	17K04642	幼稚園におけるミドルリーダー育成のための現代的な研修システムの開発
18	基金	基盤研究(C)	青木 康太郎 准教授 人	17K01639	自然体験活動における事故や傷病、ヒヤリハットの発生要因と安全対策に関する研究
19	基金	基盤研究(C)	木原 志乃 教授 文	18K00047	古代ギリシア医学における病の位相: 女性の身体の発見と医術の観点から
20	基金	基盤研究(C)	石井 研士 教授 神	18K00081	宗教法人の経営する霊園・納骨堂の経営に関する研究 - 「名義貸し」を中心に
21	基金	基盤研究(C)	藤澤 紫 教授 文	18K00169	浮世絵にみる文明開化 - 子ども文化の変遷と教育ツールとしての玩具絵 -
22	基金	基盤研究(C)	田原 裕子 教授 経	18K01151	渋谷再開発を契機とした新しい都市的コミュニティの創造に関する研究
23	基金	基盤研究(C)	千野 謙太郎 准教授 人	18K10880	筋の活動・活動様式を考慮した呼吸筋のウォーミングアップ・トレーニングに関する研究
24	基金	基盤研究(C)	渡邊 雅俊 教授 人	18K02800	知的障害児の仲間との相互作用による学習活動における認知特性とその援助方法
25	基金	基盤研究(C)	星野 靖二 准教授 研	19K00086	近代日本における「世界の諸宗教」像の展開に関する基礎的研究
26	基金	基盤研究(C)	備前 嘉文 准教授 文	18K10825	スポーツツーリズム参加人口拡大に向けたスポーツツーリストの理解
27	基金	基盤研究(C)	諸星 美智直 教授 文	19K00630	福祉言語史の基礎資料としての近代日本語点字資料の調査と整備
28	基金	基盤研究(C)	金杉 武司 教授 文	19K00018	クオリアの反自然主義に最適な知覚理論としての直接知覚説の可能性
29	基金	基盤研究(C)	青木 洋司 准教授 文	19K00061	江戸期「論語」訓蒙書の基礎的研究
30	基金	基盤研究(C)	久野 マリ子 客員教授 文	19K00651	首都圏方言の古層の記述とその全国若年層への広がりに関する研究
31	基金	基盤研究(C)	長田 恵理 准教授 人	19K00770	小学校外国語教育において児童の自立学習を促す指導モデルの開発
32	基金	基盤研究(C)	山崎 雅裕 准教授 文	19K00999	新出・善庵半跏像および金石文の分析による古代日本・朝鮮の弥勒信仰の研究
33	基金	基盤研究(C)	齋藤 智哉 教授 文	19K02457	明治期から昭和初期の学校教育における「修養」と「教養」に関する基盤的研究
34	基金	基盤研究(C)	金子 良太 教授 経	19K02021	政府・非営利組織のインセンティブ志向の財務報告モデルの構築
35	基金	基盤研究(C)	藤嶋 亮 教授 法	19K01453	欧州「周辺」における第一次大戦の衝撃と政治変動 - バルカンとイペリアの比較から
36	基金	基盤研究(C)	進藤 久乃 准教授 文	17K02610	第二次大戦後フランス文学における前衛的諸問題
37	基金	基盤研究(C)	牧野 格子 准教授 文	20K00373	謝冰心・呉藻の1950年代 - 70年代私的日記から見る思想改造教育の影響
38	基金	基盤研究(C)	甘利 航司 教授 法	20K01355	RF型及びGPS型電子監視を使用した、ストーカー被害者の保護システムの構築
39	基金	基盤研究(C)	稲垣 浩 准教授 法	20K01453	QCAとネットワーク分析を利用した環境変動が人事運用に与える影響の研究
40	基金	基盤研究(C)	林 貢一郎 教授 人	20K11341	大豆イソフラボン代謝産物エクオールが運動による動脈硬化改善効果に及ぼす影響
41	基金	基盤研究(C)	新藤 透 教授 文	20K12561	近代日本の国民国家形成期における図書館の役割
42	基金	基盤研究(C)	江川 式部 准教授 文	18K01005	祭祀儀礼からみた唐代の藩鎮と地方社会の研究
43	基金	基盤研究(C)	下村 彰男 教授 研	18K05703	「地域資源」としての都市緑地のあり方に関する研究
44	基金	若手研究(B)	川田 裕樹 准教授 人	17K13251	肥満小児と保護者の協調行動を重視した生活習慣改善支援プログラムの検討と開発
45	基金	若手研究(B)	杉山 里枝 教授 経	17K13770	戦前期尾西織物業の展開と地域の産業化に関する社会経済的研究
46	基金	若手研究	加納 なおみ 准教授 教	18K12423	海外日本語補習授業校におけるリテラシー能力強化をめざす新たな日本語教育プログラム
47	基金	若手研究	手塚 雄太 准教授 文	18K12506	近現代日本における「個人後援会」の基礎的研究
48	基金	若手研究	小手川 正二郎 准教授 文	19K12931	レヴィナスの性差・家族の現象学
49	基金	若手研究	小林 唯 助教 人	19K20046	アスリートのための客観的コンディショニング評価システムの構築
50	基金	若手研究	尾田 基 准教授 経	19K13806	社会的逸脱行動がイノベーションに及ぼす影響
51	基金	若手研究	櫻井 潤 准教授 経	19K13981	地域の医療ニーズに即した医療扶助システムの構築に向けた医療保障政策の実証的研究
52	基金	若手研究	安田 恵美 准教授 法	20K13354	バルネラブルな刑務所出所者等の「社会参加」促進に向けた施策に関する研究
53	基金	若手研究	石山 千代 准教授 研	20K14897	地域外主体の受入れと施策連携による廃校活用計画論の構築に関する研究
54	基金	研究活動スタート支援	佐藤 俊輔 講師 法	19K23176	EUにおける自由移動と福祉国家 - 欧州諸国の事例から
55	基金	研究活動スタート支援	児玉 千絵 講師 研	19K23554	非集計的なアプローチの都市形成史に基づくストックマネジメントとその超長期的効果
56	基金	国際共同研究強化(A)	安田 恵美 准教授 法	19KK0312	刑務所出所者等の主体的な社会参加とそれを促進するための支援に関する日仏比較研究
57	基金	研究活動スタート支援	石山 千代 准教授 研	19K23548	町並み保全地域における自主規範の実態把握及び調整システム構築・運用指針の作成
58	補助金	特別研究員奨励費	葛西 太一 PD研究員 文	19J00120	日本書紀を中心とした東アジア漢字文化圏における書記用文体の成立と交流に関する研究
59	補助金	特別研究員奨励費	高橋 亮一 DC1研究員 文	19J20636	明治期北方海域における日本の海洋進出と拡大に関する研究
60	補助金	特別研究員奨励費	中山 陽介 DC2研究員 文	20J14853	平仮名成立史の研究
61	基金	研究活動スタート支援	安達 有祐 助教 経	20K22128	交通インフラの整備と通勤における混雑が企業の活動に与える影響の分析
62	基金	研究活動スタート支援	柏木 亨介 助教 神	20K22041	国家神道の社会事業的性格の研究 - 感染症対策事業における神社界の役割と活動 -
63	補助金	研究成果公開促進費	葛西 太一 PD研究員 文	20HP5037	日本書紀段階編修論 - 文体・注記・語法からみた多様性と多層性 -

文: 文学部 神: 神道文化学部 法: 法学部 経: 経済学部 人: 人間開発学部 研: 研究開発推進機構 教: 教育開発推進機構 文研: 文学研究科

國學院大學 140周年に向けて ~ 沿革 ~

- 1882 (明治15年) ■ 國學院大學の母体「皇典講究所」創立。初代総裁は有栖川宮熈仁(たかひと)親王。場所は東京・麹町区飯田町(現・千代田区飯田橋)。9月1日、授業開始。11月4日、開校式。ここに本学は晴れの第一歩を記す。
- 1890 (明治23年) ■ 7月、「皇典講究所」を母体として、国史・国文・国法を攻究する教育機関「國學院」が誕生(本科3年・研究科2年)。「國學院」の名が歴史上初めて登場する。
- 1904 (明治37年) ■ 4月、専門学校令により専門学校に昇格。「私立國學院」となる(大学部予科2年・本科3年)。
- 1906 (明治39年) ■ 6月、文部省告示により「私立國學院大學」と改称、大学組織となる。
- 1909 (明治42年) ■ 明治33年から始まった神職講習会を改め、神職養成部(神職教習科・神職講習科・祭式講習科)を開設。
- 1920 (大正9年) ■ 4月15日、大学令により大学に昇格。私立大学として最初に認可されたのは、本学の他に、慶應義塾・早稲田・明治・中央・日本・法政・同志社の7大学。
- 1923 (大正12年) ■ 学生数も増え、大規模な学園拡充計画を5年前から進め、5月には渋谷御料地(現在地)に新校舎が完成。6月、授業を開始。以後、昭和10年代にかけて本学は発展の一途をたどる。
- 1935 (昭和10年) ■ 大講堂が竣工。
- 1946 (昭和21年) ■ 「皇典講究所」を解散し「財団法人國學院大學」を設立。他大学に先んじて男女共学制を採用。
- 1948 (昭和23年) ■ 新制文学部第一部を開設。
- 1949 (昭和24年) ■ 文学部第二部、政治学部第一部(次年度に政経学部と改称)を開設。
- 1951 (昭和26年) ■ 「学校法人國學院大學」となる。政経学部第二部を開設。大学院日本文学専攻・神道学専攻修士課程を開設。
- 1952 (昭和27年) ■ 大学院日本史学専攻修士課程を開設。「考古学資料室」を開設(昭和30年の文部省告示で博物館相当施設に指定される)。
- 1953 (昭和28年) ■ 大学院日本文学専攻・日本史学専攻修士課程を開設。
- 1955 (昭和30年) ■ 「國學院大學幼稚園教員養成所」を設立。「日本文化研究所」を創設。
- 1958 (昭和33年) ■ 神道学専攻科(高等神職養成課程)、大学院神道学専攻修士課程を開設。
- 1962 (昭和37年) ■ 神奈川運動場を開設、体育関係授業を開始。
- 1963 (昭和38年) ■ 創立80周年を記念して法学部第一部を開設。「神道学資料室」を開設。
- 1965 (昭和40年) ■ 法学部第二部を開設。「折口博士記念古代研究所」を設立。その後、「武田博士記念室(昭和41年)」「河野博士記念室(昭和45年)」を開設。
- 1966 (昭和41年) ■ 政経学部を経済学部第一部・第二部に改める。



皇典講究所飯田町校舎 (明治末期)



渋谷校舎 (大正時代)



渋谷校舎全景 (昭和10年代)



武田祐吉博士の授業風景 (昭和32年)

- 1967 (昭和42年) ■ 大学院法学研究科修士課程・博士課程、第二部神道学科を開設。
- 1968 (昭和43年) ■ 大学院経済学研究科修士課程を開設(昭和45年に博士課程を開設)。
- 1975 (昭和50年) ■ 「考古学資料室」を「考古学資料館」と改称。
- 1982 (昭和57年) ■ 11月4日、高松宮宣仁親王殿下台臨のもと創立100周年記念式典を挙行。北海道滝川市に「國學院女子短期大学」を新設。
- 1984 (昭和59年) ■ 100周年記念館が竣工。神奈川運動場に新石川校舎を建設。
- 1985 (昭和60年) ■ 新石川校舎(現「横浜たまプラーザキャンパス」)完成、授業を開始。
- 1991 (平成3年) ■ 「國學院女子短期大学」を、男女共学化により「國學院短期大学」に改称。
- 1992 (平成4年) ■ 横浜たまプラーザキャンパスで、第一部全学部1・2年生全員を対象に授業を開始。
- 1996 (平成8年) ■ 文学部第一部に日本文学科・中国文学科・外国語文化学科、経済学部第一部に経済ネットワーク学科、同第二部に産業消費情報学科を開設。
- 2001 (平成13年) ■ 法学部と経済学部がフレックス開講制に移行。
- 2002 (平成14年) ■ 11月4日、三笠宮寛仁親王殿下台臨のもと創立120周年記念式典を挙行。神道文化学部を開設(フレックス開講制)。21世紀COEプログラムに「神道と日本文化の学際的研究発信の拠点形成」が採択される。
- 2003 (平成15年) ■ 2月、120周年記念1号館が竣工。
- 2004 (平成16年) ■ 「法科大学院」を開設。7月、120周年記念2号館が竣工。
- 2005 (平成17年) ■ 経済学部経営学科を開設。経済学部および中国文学科・外国語文化学科・哲学科は7時限制に、日本文学科と史学科がフレックス開講制に移行。
- 2006 (平成18年) ■ 5月、若木タワー(地上18階、地下1階)が竣工。
- 2007 (平成19年) ■ 創立125周年。4月、「研究開発推進機構」が発足。
- 2008 (平成20年) ■ 3月、学術メディアセンター棟(地上6階、地下2階)が竣工。4月、法学部が7時限制に移行。
- 2009 (平成21年) ■ 4月、横浜たまプラーザキャンパスに人間開発学部を開設。「教育開発推進機構」が発足。「國學院短期大学」を「國學院大學北海道短期大学部」に改称。9月、3号館が竣工。
- 2011 (平成23年) ■ 日本文学科が7時限制に移行。
- 2012 (平成24年) ■ 教職センターが発足。11月4日、創立130周年記念式典を挙行。
- 2013 (平成25年) ■ 人間開発学部子ども支援学科を開設。史学科が7時限制に移行。
- 2015 (平成27年) ■ 4月、130周年記念5号館(地上3階)が竣工。
- 2017 (平成29年) ■ 創立135周年。
- 2018 (平成30年) ■ 3月、法科大学院、閉院。
- 2019 (平成31年) ■ 3月、総合学修館(6号館、地上2階、地下2階)が竣工。

進学相談会 / 資料申し込み方法

大学院進学相談会

文学研究科・法学研究科・経済学研究科の専任教員が入試説明を行うほか、専攻コースの内容に関する相談に応じます。
毎年、この相談会に参加して大学院進学を決意したという学生が多数います。皆さん、奮ってご参加ください。



詳細はホームページでご確認ください。 <https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/graduate/p1-1-1-2>

大学院 学生募集要項・過去問題 申し込み方法

配送の申し込み daigakuin-j@kokugakuin.ac.jp

ご希望の研究科名・郵便番号・住所・氏名・電話番号・ご請求の資料名(例:「学生募集要項」「過去問題(過去3年間)」など)を明記の上、メールでお申し込みください。



詳細はホームページでご確認ください。 <https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/graduate/p1-1-1-4>

窓口での受け取り(渋谷キャンパス)

直接、大学院事務課で頒布しますので、窓口にお越しください。

個人情報の取り扱いについて

保有期間は当該年度末まで

國學院大學では、「個人情報の保護に関する法律」を遵守し、個人情報の適正な取り扱いに努めています。資料申込の際に提出された個人情報は、資料送付のため以外には使用しません(この利用目的の範囲を超えて使用すること、本人の同意を得ずに第三者に提供することはありません)。



交通アクセス

学内に駐車場、駐輪場はありません。
来校の際は、公共交通機関をご利用ください。



渋谷駅から徒歩約13分

JR(山手線・埼京線)
東京メトロ(銀座線・半蔵門線・副都心線)
東急東横線 東急田園都市線 京王井の頭線

表参道駅から徒歩約15分

東京メトロ(千代田線・半蔵門線・銀座線)

恵比寿駅から徒歩約15分

JR(山手線・埼京線)

國學院大學大学院

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28
TEL: 03-5466-0142
E-mail: daigakuin-j@kokugakuin.ac.jp
<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/graduate>

